

令和4年度

教 育 要 項

(別冊)

総合教育選択科目



自治医科大学 医学部

学籍番号 (所属)

氏 名

教育要項別冊 総合教育選択科目 目次

1. 科目番号表	1
2. 教育目標	3
3. 履修要領	3
4. 令和4年度開講日	5
5. 令和4年度選択科目時間割	7
6. 人文社会系科目	9
7. 自然系科目	47
8. 外国語系科目	77

1. 総合教育選択科目番号表

科目番号	L1	総合教育選択科目	主任教授	菊地 元史
------	----	----------	------	-------

L11 人文社会系

授 業 科 目	科目番号／科目名	責任者	ページ
L111 哲学	L1111-5 心と体の哲学	小 野 純 一	10
	L1111-6 西洋音楽史Ⅰ	吹 田 映 子	11
	L1111-7 西洋音楽史Ⅱ	吹 田 映 子	12
	L1111-8 西洋音楽史Ⅲ	吹 田 映 子	13
	L1111-9 西洋音楽史Ⅳ	吹 田 映 子	14
	L1113-1 医学・医療と芸術	吹 田 映 子	15
	L1113-6 西洋美術史	吹 田 映 子	16
	L1114-4 仏教思想史Ⅰ	小 野 純 一	17
	L1115-1 キリスト教思想史Ⅰ	小 野 純 一	18
	L1115-2 キリスト教思想史Ⅱ	小 野 純 一	19
	L1118-5 生と死の生命倫理	渡 部 麻 衣 子	20
	L1118-6 英語で読む生命倫理	渡 部 麻 衣 子	21
	L1118-7 技術・社会・倫理	渡 部 麻 衣 子	22
	L1118-8 医療倫理入門	渡 部 麻 衣 子	23
	L1118-9 国家とは何か	小 野 純 一	24
	L1119-1 はじめての哲学	小 野 純 一	25
	L1119-2 哲学の入門	小 野 純 一	26
	L1119-3 言語文化入門Ⅰ（アラビア）	小 野 純 一	27
L1119-4 言語文化入門Ⅱ（アラビア）	小 野 純 一	28	
L112 心理学	L1122-1 臨床心理学	菊 地 元 史	29
	L1122-2 臨床発達心理学	菊 地 元 史	30
	L1123-1 心理アセスメント論	菊 地 元 史	31
L113 文学	L1134 文学への誘い	吹 田 映 子	32
	L1135 文学的探索	吹 田 映 子	33
L114 医学古典語	L1140-1 医学古典語Ⅰ	小 野 純 一	34
	L1140-2 医学古典語Ⅱ	小 野 純 一	35
L115 社会学	L1150 高齢社会論	青 山 泰 子	36
	L1151 社会を診る方法	青 山 泰 子	37
	L1153 医療人類学	田 中 大 介	38
	L1154 異文化理解入門	田 中 大 介	39
	L1155 社会学概論	田 中 大 介	40
	L1156 文化人類学概論	田 中 大 介	41
	L1157 医療と民俗学	菊 地 元 史	42
	L1158-1 メディアと社会	山 邊 昭 則	43
	L1158-2 科学と社会	山 邊 昭 則	44
	L1158-3 国際社会論	山 邊 昭 則	45
	L1158-5 ソーシャルデザイン論	山 邊 昭 則	46

L12 自然系

授 業 科 目	科目番号／科目名	責任者	ページ
L121 数学	L1210 医学・医療における数学	奥 田 浩	50
	L1212 基礎数理遺伝学演習	奥 田 浩	51
	L1215 臨床医学と数学	奥 田 浩	52
	L1216 ゲノム医療がもたらすもの	奥 田 浩	53
	L1217 パソコン・IT (インターネット) で学ぶゲノム医療	奥 田 浩	54
L122 物理学	L1220-4 光科学の医学・生命科学への応用	佐 藤 文 菜	55
	L1220-5 疾病関連タンパク質概論	山 本 直 樹	56
L123 化学	L1233-1 細胞のがん化を制御するシグナル伝達(1)	多 胡 憲 治	57
	L1233-2 細胞のがん化を制御するシグナル伝達(2)	多 胡 憲 治	58
	L1234-1 「化学」で解き明かす生命現象	太 田 聡	59
L124 生物学	L1240 細胞生物学	高 橋 将 文	60
	L1241 発生生物学入門	佐 藤 滋	61
	L1242-3 「形」から学ぶヒトの生物学 1	菊 地 元 史	62
	L1242-4 「形」から学ぶヒトの生物学 2	菊 地 元 史	63
	L1243 生物多様性を考える	菊 地 元 史	64
	L1245 系統発生学入門	菊 地 元 史	65
L125 保健体育	L1254-1 体育学演習 1	板 井 美 浩	68
	L1254-2 体育学演習 2	板 井 美 浩	69
	L1254-3 体育学演習 3	板 井 美 浩	70
	L1254-4 体育学演習 4	板 井 美 浩	71
L126 医療安全学	L1261 医療シミュレーション入門	鈴 木 義 彦	72
	L1262-1 医療における「学習」と「教育」	浅 田 義 和	73
	L1262-2 ICT時代の情報活用力	浅 田 義 和	74
	L1263 医療安全のための理論と実践	前 田 佳 孝	75
L127 薬理学	L1270 医薬品研究の歴史	輿 水 崇 鏡	76

L13 外国語系

授 業 科 目	科目番号／科目名	責任者	ページ
L131 英語	L1315-7 World Countries and Culture I	R.Dilenschneider	79
	L1315-8 World Countries and Culture II	R.Dilenschneider	80
	L1315-10 American Culture, Cities and States	R.Dilenschneider	81
	L1316-7 Critical Thinking	R.Dilenschneider	82
	L1316-9 Contemporary Pop Music and Musicians	R.Dilenschneider	83
	L1316-11 English Essay Writing	R.Dilenschneider	84
	L1316-13 Reading Concepts	R.Dilenschneider	85
	L1317-2 Cultural Tendencies of Nihon in English	A . J . L e b o w i t z	86
	L1317-5 Medical Ethics Topics English Discussion	A . J . L e b o w i t z	87
	L1317-6 Intro to Research Paper Reading	A . J . L e b o w i t z	88
	L1317-7 Medical History Topics English Discussion	A . J . L e b o w i t z	89
	L1318 英語音声学入門～正しい発声を学ぼう～	A . J . L e b o w i t z	90
L132 ドイツ語	L1320-3 はじめてのドイツ語	小 野 純 一	91
	L1320-4 ドイツ語初級	小 野 純 一	92
L133 中国語	L1331 中国語概論	阿 部 博 幸	93
L135 フランス語	L1350-3 はじめてのフランス語	吹 田 映 子	94
	L1350-4 フランス語初級	吹 田 映 子	95

2. 総合教育科目の教育目標

総合教育の目標は、さまざまな学問分野に触れて、自己と社会について多様な視点および接点を獲得し、心と体と知性の全てにわたって調和のとれた個性あふれる自己形成を行うことにある。学生は一人一人の関心と個性とに応じて、主体性を持って選択科目を構成し、自己教育さらには生涯教育への第一歩を踏み出すことが期待される。

3. 総合教育選択科目履修要領

1) 科目構成

総合教育選択科目は、人文社会系、自然系、外国語系の三つの系に分類され、80余の科目が開講される。

2) 選択科目の履修単位

総合教育選択科目は10単位以上履修しなければならない。選択科目はすべて1単位である。開講予定の科目は80余あるが、その中から1年次に12単位履修する。開講されている科目の数に比べて履修しなければならない単位数が少ないので、選択の自由度が高いのが総合教育選択科目の特徴である。

3) 科目選択の多様性を旨すること

総合教育選択科目には人文社会系、自然系、外国語系の三つの系がある。それぞれの系から多様性のある選択をし、自己学習あるいは生涯学習の第一歩を踏み出すにふさわしい内容とすることが望ましい。科目には科目番号が付いている。科目番号の後に付いているA、B、C、などのアルファベットはその番号の科目が2回以上開講されていることを示すためであり、別の科目を意味するものではない。同じ科目番号の科目を間違えて複数履修しないこと。

4) 受講人数の制限

授業内容の性質などの事情により、科目ごとに定員が決められている。定員の詳細は各系別の科目一覧あるいは各科目の要項にある。定員を超えた場合でも、なるべく希望に添えるよう配慮するが、やむを得ない場合には、抽選で受講者を決める。

5) 選択科目履修登録の仕方

入学前に、インターネットを利用して履修登録を行う。登録方法、締切日等については別途通知する。

6) 履修登録の変更

- (1) 1学期に行われる科目については履修登録後の変更は原則として認めない。
- (2) 履修科目の抹消は認めない。
- (3) 2学期の履修科目の登録変更は、2科目まで受け付ける。ただし変更予定科目がすでに定員に達しているときには、別の科目を選択しなければならない。
- (4) 履修登録の変更の受付期間は、掲示にて学事課が指定する。

7) 出席の確認

各科目責任者によって異なるが、原則として毎回の授業の際に出席簿に署名し、担当教員が捺印することによって出席が確認される。

8) 成績評価ならびに再試験・再履修について

- (1) 原則として講義は授業回数の3分の2を超える（10回中7回以上）出席、演習及び実習は5分の4を超える（10回中9回以上）出席をした者を、受験資格（評価を受ける資格）を有する者とする。
- (2) 単位取得資格を有する学生に対して、試験、レポート、平常点（日常テスト、態度評価、出

席点等を含む) のいずれかもしくは二つ以上を組み合わせることで成績評価を行なう。詳細は各科目の当該欄を参照願いたい。

- (3) 評価が60点に達せず、不合格になった場合は、原則として試験期間終了後、2週間以内に、各科目責任者の指導のもと、再試験、レポート再提出、その他の方法によって、再評価を受ける。この期間内に合格点が得られない場合、もしくは評価が完了しない場合、その科目の単位は修得できない。
- (4) 1学年終了時まで選択科目10単位以上を取得することが、2学年への進級要件である。

※ 上記の履修登録方法については、変更されることもあるので掲示等に注意すること。

4. 令和4年度 総合教育選択科目 開講日

	1 学期	2 学期
火曜日	2 時限／A 3 時限／B	1 時限／G 2 時限／H
	2022年 4月19日(火) 4月26日(火) 5月10日(火) 5月17日(火) 5月24日(火) 5月31日(火) 6月 7日(火) 6月14日(火) 6月21日(火) 6月28日(火)	2022年 9月 6日(火) 9月13日(火) 9月20日(火) 9月27日(火) 10月 4日(火) 10月11日(火) 10月18日(火) 10月25日(火) 11月 1日(火) 11月 8日(火)
水曜日	1 時限／C 5 時限／D	1 時限／I 3 時限／J
	2022年 4月13日(水) 4月20日(水) 4月27日(水) 5月11日(水) 5月18日(水) 5月25日(水) 6月 8日(水) 6月15日(水) 6月22日(水) 6月29日(水)	2022年 9月 7日(水) 9月14日(水) 9月21日(水) 9月28日(水) 10月 5日(水) 10月12日(水) 10月19日(水) 10月26日(水) 11月 2日(水) 11月 9日(水)
木曜日	2 時限／E 3 時限／F	1 時限／K 2 時限／L
	2022年 4月14日(木) 4月21日(木) 4月28日(木) 5月12日(木) 5月19日(木) 5月26日(木) 6月 9日(木) 6月16日(木) 6月23日(木) 6月30日(木)	2022年 9月 8日(木) 9月15日(木) 9月22日(木) 9月29日(木) 10月13日(木) 10月20日(木) 10月27日(木) 11月10日(木) 11月17日(木) 11月24日(木)

令和4年度 総合教育選択科目 開講予定時間割

1 学年 1 学期

	月	火	水	木	金
1 時限			総合教育 C		
2 時限		総合教育 A		総合教育 E	
3 時限		総合教育 B		総合教育 F	
4 時限					
5 時限			総合教育 D		

1 学年 2 学期

	月	火	水	木	金
1 時限		総合教育 G	総合教育 I	総合教育 K	
2 時限		総合教育 H		総合教育 L	
3 時限			総合教育 J		
4 時限					
5 時限					

5. 令和4年度総合教育選択科目時間割

1 学 期

開講曜日		火 曜 日		木 曜 日		
2 時 限 A	人文社会系	L1111-6 ※ L1118-5A L1119-2 L1151A L1154A	※ 西洋音楽史 I (加藤) 生と死の生命倫理 (渡部) 哲学の入門 (中山) 社会を診る方法 (青山) 異文化理解入門 (渥美)	2 時 限 E	L1111-7 ※ L1113-1A L1118-8B L1119-1C L1122-1A L1155A	※ 西洋音楽史 II (加藤) 医学・医療と芸術 (吹田) 医療倫理入門 (渡部) はじめての哲学 (小野) 臨床心理学 (高瀬) 社会学概論 (渥美)
	自然系	L1210 L1254-1A ※ L1261A L1262-1A	医学・医療における数学 (奥田) ※ 体育学演習 1 (板井) 医療シミュレーション入門 (鈴木義) 医療における「学習」と「教育」(浅田)		L1233-1 L1240 L1254-2A	細胞のがん化を制御するシグナル伝達 (1) (多胡) 細胞生物学 (高橋) 体育学演習 2 (板井)
	外国語系	L1315-7 L1317-6A L1350-3A L1119-3A	World Countries and Culture I (Dilenschneider) Intro to Research Paper Reading 論文読入門 (Lebowitz) はじめてのフランス語 (吹田) 言語文化入門 I (アラビア) (小野)		L1316-7 L1317-5A L1318A	Critical Thinking (Dilenschneider) Medical Ethics Topics English Discussion 臨床倫理英語ディスカッション (Lebowitz) 英語音声学入門～正しい発声を学ぼう～ (清水)
3 時 限 B	人文社会系	L1115-1 L1118-6A L1119-1A L1154B L1158-5	キリスト教思想史 I (加藤) 英語で読む生命倫理 (渡部) はじめての哲学 (小野) 異文化理解入門 (渥美) ソーシャルデザイン論 (山邊)	3 時 限 F	L1113-1B L1114-4 L1118-7A L1122-1B L1153A L1158-1	医学・医療と芸術 (吹田) 仏教思想史 I (加藤) 技術・社会・倫理 (渡部) 臨床心理学 (高瀬) 医療人類学 (田中) メディアと社会 (山邊)
	自然系	L1217A L1234-1 L1254-1B ※ L1261B L1262-1B	パソコン・IT(インターネット)で学ぶゲノム医療(奥田) 「化学」で解き明かす生命現象(太田) ※ 体育学演習 1 (板井) 医療シミュレーション入門 (鈴木義) 医療における「学習」と「教育」(浅田)		L1242-4 ※ L1254-2B	※「形」から学ぶヒトの生物学 2 (菊地) 体育学演習 2 (板井)
	外国語系	L1315-10 L1317-2A L1320-3 L1350-3B	American Culture, Cities and States (Dilenschneider) Cultural Tendencies of Nihon in English 英語で日本文化 (Lebowitz) はじめてのドイツ語 (中山) はじめてのフランス語 (吹田)		L1119-3B	言語文化入門 I (アラビア) (小野)

開講曜日		水 曜 日	
1 時 限 C	人文社会系	L1113-6A L1118-8A L1119-1B L1154C	西洋美術史 (吹田) 医療倫理入門 (渡部) はじめての哲学 (小野) 異文化理解入門 (渥美)
	自然系	L1216A L1242-3 ※ L1270A	ゲノム医療がもたらすもの (奥田) ※「形」から学ぶヒトの生物学 1 (菊地) 医薬品研究の歴史 (輿水)
	外国語系	L1316-13 L1317-7A	Reading Concepts (Dilenschneider) Medical History Topics English Discussion 医学史英語ディスカッション (Lebowitz)
5 時 限 D	人文社会系	L1118-6B L1118-9 L1134 L1140-1 ※ L1150 L1154D	英語で読む生命倫理 (渡部) 国家とは何か (加藤) 文学への誘い (鈴木俊) ※ 医学古典語 I (小野) 高齢社会論 (青山) 異文化理解入門 (田中)
	自然系	L1215A L1220-4 L1261C L1270B	臨床医学と数学 (奥田) 光科学の医学・生命科学への応用 (佐藤文) 医療シミュレーション入門 (鈴木義) 医薬品研究の歴史 (輿水)
	外国語系	L1331	中国語概論 (阿部)

科目番号の A、B 等の記号はその科目が他の時間にも開講されていることを示す。

※がついている科目は、履修条件が設定されているため、各科目の紹介ページをよく読むこと。

2 学 期

開講曜日		火 曜 日		木 曜 日		
1 時 限 G	人文社会系	L1118-5B L1119-1D L1122-2A L1154E L1157	生と死の生命倫理 (渡部) はじめての哲学 (小野) 臨床発達心理学 (高瀬) 異文化理解入門 (渥美) 医療と民俗学 (立石)	1 時 限 K	L1113-1C L1118-8D L1119-1F L1123-1A L1151B L1155B L1254-2C	医学・医療と芸術 (吹田) 医療倫理入門 (渡部) はじめての哲学 (小野) 心理アセスメント論 (高瀬) 社会を診る方法 (青山) 社会学概論 (渥美) 体育学演習 2 (板井)
	自然系	L1216B L1254-1C ※ L1261D L1262-2A	ゲノム医療がもたらすもの (奥田) 体育学演習 1 (板井) 医療シミュレーション入門 (鈴木義) ICT時代の情報活用力 (浅田)		L1317-6B	Intro to Research Paper Reading論文読入門 (Lebowitz)
	外国語系	L1315-8 L1317-2B L1320-4 ※ L1350-4 ※	World Countries and Culture II (Dilenschneider) Cultural Tendencies of Nihon in English英語で日本文化 (Lebowitz) ※ドイツ語初級 (中山) ※フランス語初級 (吹田)			
2 時 限 H	人文社会系	L1111-5 L1111-8 ※ L1118-6C L1122-2B L1154F L1158-2	心と体の哲学 (中山) ※西洋音楽史Ⅲ (加藤) 英語で読む生命倫理 (渡部) 臨床発達心理学 (高瀬) 異文化理解入門 (渥美) 科学と社会 (山邊)	2 時 限 L	L1111-9 ※ L1113-1D L1118-6D L1123-1B L1153B L1158-3 L1233-2 L1241 L1254-2D L1263	※西洋音楽史Ⅳ (加藤) 医学・医療と芸術 (吹田) 英語で読む生命倫理 (渡部) 心理アセスメント論 (高瀬) 医療人類学 (田中) 国際社会論 (山邊) 細胞のがん化を制御するシグナル伝達 (2) (多胡) 発生生物学入門 (佐藤滋) 体育学演習 2 (板井) 医療安全のための理論と実践 (前田)
	自然系	L1217B L1220-5 L1243A L1254-1D ※ L1261E L1262-2B	パソコン・IT(インターネット)で学ぶゲノム医療 (奥田) 疾病関連タンパク質概論 (山本) 生物多様性を考える (菊地) 体育学演習 1 (板井) 医療シミュレーション入門 (鈴木義) ICT時代の情報活用力 (浅田)			
	外国語系	L1316-9 L1350-3C L1119-4 ※	Contemporary Pop Music and Musicians (Dilenschneider) はじめてのフランス語 (吹田) ※言語文化入門Ⅱ (アラビア) (小野)			L1316-11 L1317-7B L1318B L1119-3C

開講曜日		水 曜 日	
1 時 限 I	人文社会系	L1113-6B L1118-8C L1119-1E L1154G	西洋美術史 (吹田) 医療倫理入門 (渡部) はじめての哲学 (小野) 異文化理解入門 (渥美)
	自然系	L1212 L1245 L1254-3	基礎数理遺伝学演習 (奥田) 系統発生学入門 (菊地) 体育学演習 3 (板井)
	外国語系	L1317-5B	Medical Ethics Topics English Discussion 臨床倫理英語ディスカッション (Lebowitz)
3 時 限 J	人文社会系	L1115-2 ※ L1118-7B L1135 L1140-2 ※ L1156	※キリスト教思想史Ⅱ (加藤) 技術・社会・倫理 (渡部) 文学的探索 (鈴木俊) ※医学古典語Ⅱ (小野) 文化人類学概論 (田中)
	自然系	L1215B L1243B L1254-4 L1261F	臨床医学と数学 (奥田) 生物多様性を考える (菊地) 体育学演習 4 (板井) 医療シミュレーション入門 (鈴木義)

科目番号の A、B 等の記号はその科目が他の時間にも開講されていることを示す。

※がついている科目は、履修条件が設定されているため、各科目の紹介ページをよく読むこと。

〔L11〕 人文社会系科目

人文社会系科目一覧

科目番号／授業科目	責任者	学期／曜／時限	授業形態	単位	定員	評価
L1111-5 心と体の哲学	小野	Ⅱ・火・2	講義	1	20	態度・課題
L1111-6 西洋音楽史Ⅰ	吹田	Ⅰ・火・2	講義・演習	1	15	出席・レポート・態度
L1111-7 西洋音楽史Ⅱ	吹田	Ⅰ・木・2	講義・演習	1	15	出席・レポート・態度
L1111-8 西洋音楽史Ⅲ	吹田	Ⅱ・火・2	講義・演習	1	15	出席・レポート・態度
L1111-9 西洋音楽史Ⅳ	吹田	Ⅱ・木・2	講義・演習	1	15	出席・レポート・態度
L1113-1 医学・医療と芸術	吹田	A・Ⅰ・木・2 B・Ⅰ・木・3 C・Ⅱ・木・1 D・Ⅱ・木・2	講義・演習	1	30	出席・レポート他
L1113-6 西洋美術史	吹田	A・Ⅰ・水・1 B・Ⅱ・水・1	講義・演習	1	30	出席・レポート他
L1114-4 仏教思想史Ⅰ	小野	Ⅰ・木・3	講義	1	10	レポート
L1115-1 キリスト教思想史Ⅰ	小野	Ⅰ・火・3	演習	1	20	レポート・態度
L1115-2 キリスト教思想史Ⅱ	小野	Ⅱ・水・3	演習	1	12	レポート・態度
L1118-5 生と死の生命倫理	渡部	A・Ⅰ・火・2 B・Ⅱ・火・1	講義・演習	1	30	小レポート・態度
L1118-6 英語で読む生命倫理	渡部	A・Ⅰ・火・3 B・Ⅰ・水・5 C・Ⅱ・火・2 D・Ⅱ・木・2	講義・演習	1	15	態度・レポート他
L1118-7 技術・社会・倫理	渡部	A・Ⅰ・木・3 B・Ⅱ・水・3	講義・演習	1	30	態度・レポート
L1118-8 医療倫理入門	渡部	A・Ⅰ・水・1 B・Ⅰ・木・2 C・Ⅱ・水・1 D・Ⅱ・木・1	講義・演習	1	30	試験・レポート
L1118-9 国家とは何か	小野	Ⅰ・水・5	講義・演習・実習	1	20	出席・レポート他
L1119-1 はじめての哲学	小野	A・Ⅰ・火・3 B・Ⅰ・水・1 C・Ⅰ・木・2 D・Ⅱ・火・1 E・Ⅱ・水・1 F・Ⅱ・木・1	講義	1	10	レポート他
L1119-2 哲学の入門	小野	Ⅰ・火・2	講義	1	20	態度・課題
L1119-3 言語文化入門Ⅰ(アラビア)	小野	A・Ⅰ・火・2 B・Ⅰ・木・3 C・Ⅱ・木・2	演習	1	10	出席・態度・課題
L1119-4 言語文化入門Ⅱ(アラビア)	小野	Ⅱ・火・2	演習	1	10	出席・態度・課題
L1122-1 臨床心理学	菊地	A・Ⅰ・木・2 B・Ⅰ・木・3	講義	1	30	出席・態度・試験
L1122-2 臨床発達心理学	菊地	A・Ⅱ・火・1 B・Ⅱ・火・2	講義	1	30	出席・態度・試験
L1123-1 心理アセスメント論	菊地	A・Ⅱ・木・1 B・Ⅱ・木・2	講義	1	30	出席・態度・試験
L1134 文学への誘い	吹田	Ⅰ・水・5	講義・演習	1	15	出席・レポート他
L1135 文学的探索	吹田	Ⅱ・水・3	講義・演習	1	15	出席・レポート他
L1140-1 医学古典語Ⅰ	小野	Ⅰ・水・5	講義	1	30	小テスト
L1140-2 医学古典語Ⅱ	小野	Ⅱ・水・3	講義	1	30	小テスト
L1150 高齢社会論	青山	Ⅰ・水・5	講義	1	30	レポート・態度他
L1151 社会を診る方法	青山	A・Ⅰ・火・2 B・Ⅱ・木・1	講義	1	30	課題・態度
L1153 医療人類学	田中	A・Ⅰ・木・3 B・Ⅱ・木・2	講義・演習	1	20	出席・レポート他
L1154 異文化理解入門	田中	A・Ⅰ・火・2 B・Ⅰ・火・3 C・Ⅰ・水・1 D・Ⅰ・水・5 E・Ⅱ・火・1 F・Ⅱ・火・2 G・Ⅱ・水・1	講義・演習	1	20	平常点・試験他
L1155 社会学概論	田中	A・Ⅰ・木・2 B・Ⅱ・木・1	講義・演習	1	20	平常点・試験他
L1156 文化人類学概論	田中	Ⅱ・水・3	講義・演習	1	20	平常点・レポート他
L1157 医療と民俗学	菊地	Ⅱ・火・1	講義	1	20	出席・レポート・態度
L1158-1 メディアと社会	山邊	Ⅰ・木・3	講義・演習	1	30	課題他
L1158-2 科学と社会	山邊	Ⅱ・火・2	講義・演習	1	30	課題他
L1158-3 国際社会論	山邊	Ⅱ・木・2	講義・演習	1	30	課題他
L1158-5 ソーシャルデザイン論	山邊	Ⅰ・火・3	講義・演習	1	30	課題他

科目番号	科目名	責任者	学年
L1111-5	心と体の哲学	小野純一	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [火・2] 時限 [H]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

この講義では心と体の関係性を哲学的に考えるとは、どのような思考なのか理解することを目的とします。具体的には、現代哲学の根幹をなす現象学の創始者E.フッサールの『受動的綜合』というテキストから、重要な箇所を講読しつつ紹介し、補足説明を加えます。その上で、文学、舞台作品、映画、あるいは私たちの日常経験などから具体例を紹介し、具体的にイメージを働かせながら考えます。同時に、フッサールの思考を批判的に学ぶことで、心と体の関係を再考し、現象学の思考法を理解することを目指します。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-8 科学的探究

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

Ⅲ-1-1 総合的・科学的かつ沈着冷静に課題を探究・解決する態度と能力

○教科書

配布資料

○参考書

E.フッサール『受動的綜合の分析』山口一郎、田村京子訳、国文社、1997年。

E.フッサール『能動的綜合』山口一郎、中山純一訳、知泉書館、2020年。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	導入 E.フッサールとは誰か	中山純一	哲学
2	『受動的綜合』というテキストについて	中山純一	哲学
3	「連合」とは何か ——『受動的綜合』第26、27節	中山純一	哲学
4	「同質性」による綜合について ——『受動的綜合』第28、29節	中山純一	哲学
5	「共在性」と「継続性」における個別化について ——『受動的綜合』第30、31節	中山純一	哲学
6	「触発」の伝播について ——『受動的綜合』第32、33節	中山純一	哲学
7	「生き生きした現在」と触発について ——『受動的綜合』第34、35節	中山純一	哲学
8	「覚起」について ——『受動的綜合』第36節、37節	中山純一	哲学
9	「空虚表象」について ——『受動的綜合』第38～39節	中山純一	哲学
10	まとめ・最終課題	中山純一	哲学

○評価の方法

授業での取り組み (40%)、最終課題 (60%)

○履修上の注意

なし

科目番号	科 目 名	責 任 者	学 年
L1111-6	西洋音楽史 I	吹 田 映 子	1 学 年

○開講時期 [1] 学期 [火・2] 時限 [A]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [15] 名

○ねらい

本科目はバロック後期から古典派を経て、ロマン派中期に至る西洋音楽の歴史を扱う。1コマにつき、原則として1名の作曲家を取り上げ、その生涯と作品、活動の背景となる当時の社会とその思想的背景、キリスト教信仰ならびに教会との関係などについて解説する。また代表的な作品については、作曲の経緯や技法など鑑賞に資すると思われる事柄についても解説する。鑑賞する作品については、一曲ごとに感想を書いていただく。さしあたり言葉にはならない印象や感動、連想される風景や作曲者の思いなどを、自分の言葉で表現してみることによって、自分自身を発見することもこの授業の大切なねらいとなる。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

資料配付

○参考書

なし

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	バッハ1	加 藤 直 克	外 来 講 師
2	ヘンデル	加 藤 直 克	外 来 講 師
3	モーツァルト1	加 藤 直 克	外 来 講 師
4	ベートーヴェン1	加 藤 直 克	外 来 講 師
5	シューベルト	加 藤 直 克	外 来 講 師
6	メンデルスゾーン	加 藤 直 克	外 来 講 師
7	ショパン	加 藤 直 克	外 来 講 師
8	ワーグナー	加 藤 直 克	外 来 講 師
9	ブラームス	加 藤 直 克	外 来 講 師
10	ブルックナー	加 藤 直 克	外 来 講 師

○評価の方法

レポート提出、出席ならびに授業への参加態度。

○履修上の注意

希望者が履修定員を超える場合には、西洋音楽史Ⅱを併せて受講したい人を優先します。授業が始まってから20分以内は遅刻扱い(半出席)、それ以降は欠席扱いとします。

科目番号	科 目 名	責 任 者	学 年
L1111-7	西洋音楽史Ⅱ	吹田 映子	1 学 年

○開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [E]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [15] 名

○ねらい

本科目はバロック後期から古典派を経て、ロマン派中期に至る西洋音楽の歴史を扱う。1コマにつき、原則として1名の作曲家を取り上げ、その生涯と作品、活動の背景となる当時の社会とその思想的背景、キリスト教信仰ならびに教会との関係などについて解説する。また代表的な作品については、作曲の経緯や技法など鑑賞に資すると思われる事柄についても解説する。鑑賞する作品については、一曲ごとに感想を書いていただく。さしあたり言葉にはならない印象や感動、連想される風景や作曲者の思いなどを、自分の言葉で表現してみることによって、自分自身を発見することもこの授業の大切なねらいとなる。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

資料配付

○参考書

なし

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	ヴィヴァルディ	加藤直克	外来講師
2	バッハ2	加藤直克	外来講師
3	ハイドン	加藤直克	外来講師
4	モーツァルト2	加藤直克	外来講師
5	ベートーヴェン2	加藤直克	外来講師
6	ベルリオーズ	加藤直克	外来講師
7	シューマン	加藤直克	外来講師
8	リスト	加藤直克	外来講師
9	ヴェルディ	加藤直克	外来講師
10	チャイコフスキー	加藤直克	外来講師

○評価の方法

レポート提出、出席ならびに授業への参加態度。

○履修上の注意

希望者が履修定員を超える場合には、西洋音楽史Ⅰを併せて受講したい人を優先します。授業が始まってから20分以内は遅刻扱い(半出席)、それ以降は欠席扱いとします。

科目番号	科 目 名	責 任 者	学 年
L1111-8	西洋音楽史Ⅲ	吹田 映子	1 学 年

○開講時期 [2] 学期 [火・2] 時限 [H]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [15] 名

○ねらい

本科目は19世紀半ば、ロマン派後期から20世紀前半に掛けての西洋音楽の西洋音楽の歴史を扱う。1コマにつき、原則として1名の作曲家を取り上げ、その生涯と作品、活動の背景となる当時の社会とその思想的背景、キリスト教信仰ならびに教会との関係などについて解説する。また代表的な作品については、作曲の経緯や技法など鑑賞に資すると思われる事柄についても解説する。鑑賞する作品については、一曲ごとに感想を書いていただく。さしあたり言葉にはならない印象や感動、連想される風景や作曲者の思いなどを、自分の言葉で表現してみることによって、自分自身を発見することもこの授業の大切なねらいとなる。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

資料配付

○参考書

なし

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	ドヴォルザーク	加藤 直克	外 来 講 師
2	ビゼー	加藤 直克	外 来 講 師
3	フォーレ	加藤 直克	外 来 講 師
4	プッチーニ	加藤 直克	外 来 講 師
5	ドビュッシー	加藤 直克	外 来 講 師
6	ラフマニノフ	加藤 直克	外 来 講 師
7	バルトーク	加藤 直克	外 来 講 師
8	ストラヴィンスキー	加藤 直克	外 来 講 師
9	ハチャトリアン	加藤 直克	外 来 講 師
10	シェーンベルク	加藤 直克	外 来 講 師

○評価の方法

レポート提出、出席ならびに授業への参加態度。

○履修上の注意

受講希望者が定員を超える場合は、西洋音楽史Ⅳを併せて受講したい人を優先します。授業が始まってから20分以内は遅刻扱い（半欠席）、それ以降は欠席扱いとします。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1111-9	西洋音楽史Ⅳ	吹田映子	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [木・2] 時限 [L]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [15] 名

○ねらい

本科目は19世紀半ば、ロマン派後期から20世紀前半に掛けての西洋音楽の歴史を扱う。1コマにつき、原則として1名の作曲家を取り上げ、その生涯と作品、活動の背景となる当時の社会とその思想的背景、キリスト教信仰ならびに教会との関係などについて解説する。また代表的な作品については、作曲の経緯や技法など鑑賞に資すると思われる事柄についても解説する。鑑賞する作品については、一曲ごとに感想を書いていただく。さしあたり言葉にはならない印象や感動、連想される風景や作曲家の思いなどを、自分の言葉で表現してみることによって、自分自身を発見することもこの授業の大切なねらいとなる。西洋音楽史ⅣではⅢで扱わなかった同時代の作曲家を扱う。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

資料配付

○参考書

なし

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	グreek	加藤直克	外来講師
2	エルガー	加藤直克	外来講師
3	マーラー	加藤直克	外来講師
4	シベリウス	加藤直克	外来講師
5	ラベル	加藤直克	外来講師
6	ロシア国民楽派	加藤直克	外来講師
7	リヒャルト・シュトラウス	加藤直克	外来講師
8	プロコフィエフ	加藤直克	外来講師
9	ガーシュイン	加藤直克	外来講師
10	ショスタコーヴィチ	加藤直克	外来講師

○評価の方法

レポート提出、出席ならびに授業への参加態度。

○履修上の注意

受講希望者が定員を超える場合は、西洋音楽史Ⅲを併せて受講したい人を優先します。授業が始まってから20分以内は遅刻扱い（半欠席）、それ以降は欠席扱いとします。

科目番号	科 目 名	責 任 者	学 年
L1113-1	医学・医療と芸術	吹田映子	1 学 年

- 開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [E] [1] 学期 [木・3] 時限 [F]
 [2] 学期 [木・1] 時限 [K] [2] 学期 [木・2] 時限 [L]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

医学「と」芸術、医療「と」芸術。一見かけ離れた分野のあいだには、どのような関係があるでしょうか。近代の合理主義を通じて別物と認識されるようになったこれら人間の営為は、実際にはいつの時代・どの地域においても分かちがたい関係を結んでいるように思われます。この授業では、レオナルド・ダ・ヴィンチにおける絵画と解剖デッサンとの関連を出発点に、西洋美術史と西洋医学史の接点に分け入ります。舞台は15世紀のイタリアから17世紀のオランダへ。その後は18世紀の日本へと移ります（日蘭医学交流）。また、外来講師を招いて現代日本の医療現場におけるアートセラピーの試みについても知見を得ます。本講義を通じて芸術一般および医学史への関心を高めるとともに、医学・医療を文化として、より広い視野で捉える姿勢を身につけましょう。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅲ-1-3 医学・医療・科学技術と社会の変化に応じてキャリアを継続させる能力

○教科書

資料を配布します。

○参考書

岡田温司・池上英洋『レオナルド・ダ・ヴィンチと受胎告知』平凡社

立川昭二『歴史紀行 死の風景』朝日選書

『医は仁術』展覧会公式ガイドブック

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	イタリア・ルネサンスにおける受胎告知図の流行と医学（15世紀）	吹田映子	文 学
2	ダ・ヴィンチの解剖デッサン（15世紀末）	吹田映子	文 学
3	解剖学とオルガン	吹田映子	文 学
4	ボス《石の切除手術》（15世紀末）から考える医学の制度化	吹田映子	文 学
5	レンブラント《テュルプ博士の解剖学講義》に見る17世紀オランダの市民社会と医学	吹田映子	文 学
6	〈アートセラピーの試み（1）〉	吹田映子 （外来講師と共同）	文 学
7	杉田玄白『蘭学事始』（19世紀）を読む（1）	吹田映子	文 学
8	杉田玄白『蘭学事始』（19世紀）を読む（2）	吹田映子	文 学
9	〈アートセラピーの試み（2）〉	吹田映子 （外来講師と共同）	文 学
10	日本の解剖書：山脇東洋『蔵志』（18世紀）	吹田映子	文 学

○評価の方法

総合評価：出席、発言、小レポート

○履修上の注意

なし

科目番号	科目名	責任者	学年
L1113-6	西洋美術史	吹田映子	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [水・1] 時限 [C]

[2] 学期 [水・1] 時限 [I]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

図画工作や美術の授業を通して作る楽しみは経験したものの、美術作品を鑑賞する楽しみについては今一つわからない、という人はいませんか。旧石器時代の洞窟壁画から現代の幅広い「アート」まで、造形作品は歴史的な資料でもあります。学問としての美術史は、その作品がいつ、どこで、誰が、何のために制作したのかを問題にします。いわば一つのナゾとして作品と対峙するのです。美術のジャンルには彫刻や版画など様々ありますが、例えば絵画では、描かれた人物の服装や、背景にある建築物など、見過ごしがちな細部に着目することでナゾを解く鍵を得られることがよくあります。この授業では西洋絵画史において特に謎めいた作品を紹介しますから、頭を捻りながら美術史を学びましょう。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

資料を配布します。

○参考書

授業中に紹介します。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	ナゾの絵 (1)	吹 田 映 子	文 学
2	15世紀前半 フランドル 北方ルネサンス	吹 田 映 子	文 学
3	ナゾの絵 (2)	吹 田 映 子	文 学
4	15世紀後半 イタリア ルネサンス	吹 田 映 子	文 学
5	ナゾの絵 (3)	吹 田 映 子	文 学
6	17世紀 スペイン バロック	吹 田 映 子	文 学
7	ナゾの絵 (4)	吹 田 映 子	文 学
8	20世紀 ベルギー シュルレアリスム	吹 田 映 子	文 学
9	好きな絵 (1)	吹 田 映 子	文 学
10	好きな絵 (2)	吹 田 映 子	文 学

○評価の方法

出席、発言、小レポート

○履修上の注意

なし

科目番号	科目名	責任者	学年
L1114-4	仏教思想史 I	小野純一	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [木・3] 時限 [F]

○授業形式 講義

○履修定員 [10] 名

○ねらい

仏教思想史は、古代インドにおけるヴェーダを中心とするバラモン教の成立の状況を解説する。さらに前6世紀以後ガンジス川流域を中心とする都市部の発展により、バラモン教に飽き足らないさまざまな人々の中から、ゴータマ・シッダルタが現れ、その出家に至るまでの歩みをたどる。彼らの共通の課題である業と輪廻の桎梏からいかにして解脱するかという関心から、仏陀の悟りの意味するものを追求する。その悟りを仏陀が他者に伝えようとしたことから、修行者の集団である僧伽の成立した。仏陀の入滅後、教えが集められ（仏典結集）仏教の根本の教えが成立した。しかし教説の解釈をめぐる教団は分裂し、やがて南伝仏教と大乘仏教に別れていく。講義では大乘仏教のエッセンスを説いた『般若心経』を取り上げ、内容を解説する。最後に日本人の宗教意識と仏教との関係について検討する。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-8 科学的探究

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅲ-1-1 総合的・科学的かつ沈着冷静に課題を探求・解決する態度と能力

○教科書

資料配付

○参考書

竹村牧男『般若心経を読み解く』角川ソフィア文庫

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	ヴェーダとウパニシャッド	加藤直克	外来講師
2	輪廻と業（1）六道輪廻、地獄の思想	加藤直克	外来講師
3	輪廻と業（2）因果応報、三界唯識	加藤直克	外来講師
4	釈迦の生涯と成道	加藤直克	外来講師
5	仏典結集と僧伽の成立	加藤直克	外来講師
6	四諦、十二因縁、八正道、中道、	加藤直克	外来講師
7	上座部と大衆部、大乘仏教の成立	加藤直克	外来講師
8	『般若心経』解説、観世音菩薩	加藤直克	外来講師
9	日本人と仏教（1）	加藤直克	外来講師
10	日本人と仏教（2）	加藤直克	外来講師

○評価の方法

レポート提出による。

○履修上の注意

なし

科目番号	科 目 名	責 任 者	学 年
L1115-1	キリスト教思想史 I	小 野 純 一	1 学 年

○開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [B]

○授業形式 演習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

本科目では、主に旧約聖書の創世記、出エジプト記を中心として、ユダヤ・キリスト教の根底をなす天地創造の神話、ならびに神とイスラエルの民との契約、それに引き続くイスラエル建国までの歴史を見てゆく。これらはギリシャ思想とならんでヨーロッパ思想の根幹をなすものであり、現代の世界を理解する上でも必須の教養といえる。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

Ⅲ-1-3 医学・医療・科学技術と社会の変化に応じてキャリアを継続させる能力

○教科書

『創世記』 関根正雄訳 岩波文庫、『出エジプト記』 関根正雄訳 岩波文庫

○参考書

新共同訳 『新旧約聖書』

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	旧約聖書とはどんな書物か。	加 藤 直 克	外 来 講 師
2	天地創造から楽園追放まで。アダムとイブ	加 藤 直 克	外 来 講 師
3	ノアの洪水とバベルの塔、シュメルの神話	加 藤 直 克	外 来 講 師
4	アブラハムとイサク、神との契約	加 藤 直 克	外 来 講 師
5	イサクとヤコブ、イスラエルという名	加 藤 直 克	外 来 講 師
6	ヨセフの物語	加 藤 直 克	外 来 講 師
7	モーセと出エジプト、十戒	加 藤 直 克	外 来 講 師
8	ヨブ記、神義論	加 藤 直 克	外 来 講 師
9	ダビデのイスラエル建国	加 藤 直 克	外 来 講 師
10	王国の分裂、北イスラエルと南ユダの滅亡、バビロン捕囚	加 藤 直 克	外 来 講 師

○評価の方法

レポート提出

授業参加の態度

○履修上の注意

授業内で伝える

科目番号	科 目 名	責 任 者	学 年
L1115-2	キリスト教思想史Ⅱ	小野純一	1 学 年

○開講時期 [2] 学期 [水・3] 時限 [J]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

キリスト教思想史Ⅱでは、遠藤周作の『イエスの生涯』と『キリスト教の誕生』という二つの小説を手がかりに、イエスとその弟子たちの言葉や行いについて理解を深める。同時にその背景となる当時のユダヤの置かれた状況を俯瞰しつつ、どのようにしてキリスト教がローマ帝国の国教となるに至ったかを理解する。さらには三位一体論、この世の終末までを先取りする歴史意識について理解する。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

遠藤周作『イエスの生涯』同『キリストの誕生』角川文庫

○参考書

関根正雄訳『福音書』岩波文庫、新共同訳『旧新約聖書』、小田垣雅也『キリスト教の歴史』講談社学術文庫

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	エルサレム帰還以後のユダヤ人の歴史	加藤直克	外 来 講 師
2	イエスの誕生とその前後	加藤直克	外 来 講 師
3	バプテスマのヨハネと荒野の試練、山上の垂訓	加藤直克	外 来 講 師
4	イエスの弟子たち、イエスの行いと語り	加藤直克	外 来 講 師
5	最後の晩餐、ユダの裏切り、イエスの裁判	加藤直克	外 来 講 師
6	イエスの死と復活、昇天と再臨の予言	加藤直克	外 来 講 師
7	弟子たちの宣教。ペテロとパウロ	加藤直克	外 来 講 師
8	ローマにおけるキリスト教の弾圧と国教化	加藤直克	外 来 講 師
9	原始キリスト教と異端	加藤直克	外 来 講 師
10	アウグスティヌス、三位一体論、神の国と終末	加藤直克	外 来 講 師

○評価の方法

レポートの提出

授業参加の態度

○履修上の注意

教科書は必ず購入して下さい。理解を深めるためにはキリスト教思想史Ⅰを履修していることが望ましい。

科目番号	科 目 名	責 任 者	学 年
L1118-5	生と死の生命倫理	渡部麻衣子	1 学 年

○開講時期 [1] 学期 [火・2] 時限 [A]

[2] 学期 [火・1] 時限 [G]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

生命倫理学は、私たちは生命をどのように取り扱うべきなのか？という問いに答えようとする学問です。この問いは、1960年代、医療技術が大きく発展し、医療において人々の生命をどのように取り扱えばよいのか、という実践的な問いが生じたことを一つの契機として生じたものです。特に、生命のはじまりと終わりは、医療技術、生物医学の発展によって、大きく変容してきました。そこで、この授業では、生命倫理学における「生と死」に関する多様な議論を学びます。そして、生命をどのように取り扱うべきなのかについて、個々人がそれぞれに論じることができるようになることを目指します。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

Ⅲ-1-3 医学・医療・科学技術と社会の変化に応じてキャリアを継続させる能力

○教科書

授業内で提示する。

○参考書

授業内で提示する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	イントロダクション	渡部麻衣子	倫 理 学
2	生まれることについての議論 1 (反出生主義)	渡部麻衣子	倫 理 学
3	生まれることについての議論 2 (反出生主義)	渡部麻衣子	倫 理 学
4	生まれる命を選ぶことについての議論 1 (中絶と出生・着床前診断)	渡部麻衣子	倫 理 学
5	生まれる命を選ぶことについての議論 2 (中絶と出生・着床前診断)	渡部麻衣子	倫 理 学
6	生と死の間についての議論 (脳死と臓器提供) 1	渡部麻衣子	倫 理 学
7	生と死の間についての議論 (脳死と臓器提供) 2	渡部麻衣子	倫 理 学
8	死ぬことについての議論 (終末期医療と安楽死) 1	渡部麻衣子	倫 理 学
9	死ぬことについての議論 (終末期医療と安楽死) 2	渡部麻衣子	倫 理 学
10	まとめ	渡部麻衣子	倫 理 学

○評価の方法

授業内でのテスト

授業参加の態度

○履修上の注意

授業内で指示する。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1118-6	英語で読む生命倫理	渡部麻衣子	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [B] [1] 学期 [水・5] 時限 [D]
[2] 学期 [火・2] 時限 [H] [2] 学期 [木・2] 時限 [L]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [15] 名

○ねらい

この授業では、教科書、Human Kindness and the Smell of Warm Croissants: An Introduction to Ethics (Ruwen Ogien著, Martin Thom訳, 2015) から、数章を抜粋し、毎週1章を目標に読んでいきます。この教科書は、応用倫理学において用いられる「思考実験」という手法を、分野に馴染みのない読者にもわかりやすい形で展開したものです。「暴走するトロッコを操作するべきか否か」という有名な「トロッコ問題」から、「目の前で溺れている子どもを助ける義務はあるか?」や、「人は最初から生まれない方がいいのではないか?」というような、読者の直感を刺激するテーマが、高校卒業レベルで十分に読解可能な英語で、一章ごとに簡潔にまとめられています。応用倫理学の基礎に触れながら、長文読解の力を養いましょう。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

Human Kindness and the Smell of Warm Croissants: An Introduction to Ethics (Ruwen Ogien著, Martin Thom訳, 2015)

Introductionからの抜粋: Imagine a lifeboat caught in a storm, adrift in the open sea. On board are four men and a dog. All five die if no man is willing to be sacrificed, or if the dog is not thrown overboard. Is it morally permissible to throw the dog into the sea simply because it is a dog, without further argument? What do you think?

○参考書

なし

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	授業の進め方の解説	渡部麻衣子	倫理学
2	1章 Emergencies	渡部麻衣子	倫理学
3	2章 The Child Who Is Drowning In A Pond	渡部麻衣子	倫理学
4	3章 A Transplant Gone Mad	渡部麻衣子	倫理学
5	8章 The Experience Machine	渡部麻衣子	倫理学
6	10章 I Would Have Preferred Never to Have Been Born	渡部麻衣子	総倫理学
7	13章 A Violinist Has Been Plugged Into Your Back	渡部麻衣子	倫理学
8	15章 Who Am I Without My Organs?	渡部麻衣子	倫理学
9	18章 We Are Free Even If Everything Is Written In Advance	渡部麻衣子	倫理学
10	まとめと講評	渡部麻衣子	倫理学

○評価の方法

発表 (50%)、授業態度 (25%)、レポート (25%)

○履修上の注意

履修者の数、進捗状況によって、授業内容は若干変更する可能性があります。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1118-7	技術・社会・倫理	渡部麻衣子	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [木・3] 時限 [F]

[2] 学期 [水・3] 時限 [J]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

この授業では、技術の発展と社会がどのように関わっているのか、そしてそこにはどのような倫理的な課題が生じ、それらはどのように実践的に解決されようとしているのか、ということ、いくつかの事例を通して学びます。

取り上げる事例には医療とは異なる分野のものも含まれますが、最終的には、医療技術の発展によって、医療が大きく変容していく社会において「倫理的な医療」を実践するためのセンスを身につけることが目標です。

日本マイクロソフト株式会社、NPO法人Acceptions、共用品推進機構の方々、現代美術家の長谷川愛氏等をお招きし、ご講義頂く回を数回設ける予定です。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

Ⅲ-1-3 医学・医療・科学技術と社会の変化に応じてキャリアを継続させる能力

○教科書

教科書は使わない。

○参考書

『人と「機械」をつなぐデザイン』(佐倉統編、2015)

『共用品という思想：デザインの標準化を目指して』(後藤芳一、星川安之著、2011)

『20xx年の革命家になるには—スペキュラティブデザインの思想』(長谷川愛、2020)

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	イントロダクション	渡部麻衣子	倫理学
2	「技術の道徳化」	渡部麻衣子	倫理学
3	身体と社会	渡部麻衣子	倫理学
4	身体と技術 1	渡部麻衣子 (外部講師 調整中)	倫理学
5	身体と技術 2	渡部麻衣子 (外部講師 調整中)	倫理学
6	女性と社会	渡部麻衣子	倫理学
7	女性と技術	渡部麻衣子 (外部講師 調整中)	倫理学
8	技術と社会 1	渡部麻衣子 (外部講師 調整中)	倫理学
9	技術と社会 2	渡部麻衣子 (外部講師 調整中)	倫理学
10	まとめ	渡部麻衣子	倫理学

○評価の方法

レポート50%、授業態度 50%

○履修上の注意

授業内で伝える。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1118-8	医療倫理入門	渡部麻衣子	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [水・1] 時限 [C] [1] 学期 [木・2] 時限 [E]
[2] 学期 [水・1] 時限 [I] [2] 学期 [木・1] 時限 [K]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

医療倫理学は、「生命をいかに取り扱うべきか」を問題とする生命倫理学の中でも、特に、医療現場において生じる事柄について論じる領域です。

医療現場において生じる倫理的問題の一番の特徴は、医療者が、「患者」という自分とは異なる文脈に在る「他者」の、生命に関わる判断を下さなければならない、ということです。そのために、「インフォームド・コンセント」によって患者の意思を確認することは、「倫理的な医療」にとって必須とされています。けれど、年齢、障がい、病状等のために患者が意思を表明することができない場合があります。そうした場合においても、尚、医療が「倫理的」であるためには、どのようなことが求められるのでしょうか。

この授業では、まず、「自律した主体の自由意志」を基盤とする医療倫理学の基礎概念を学んだ後、その基盤が成り立たない場合においても尚、「倫理的医療」を可能とするための、新しい医療倫理学の概念を学びます。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-1 医の倫理に基づきヒューマニズムに徹して保健・医療・医学の問題に取り組む態度をもつ

○教科書

授業内で指定する。

○参考書

『入門・医療倫理 I、II』(赤林朗、編勁草書房、2006年)

『生命倫理のレポート・論文を書く』(松原洋子・伊吹友秀、東京大学出版会、2018年)

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	オリエンテーション	渡部麻衣子	倫理学
2	ケース1. 夜間の診療依頼	渡部麻衣子	倫理学
3	ケース2. 航空機内のドクターコール	渡部麻衣子	倫理学
4	ケース3. 家族に対する偽りの説明	渡部麻衣子	倫理学
5	ケース4. ドナーによるレシピエントの指定	渡部麻衣子	倫理学
6	ケース5. 代理出産	渡部麻衣子	倫理学
7	ケース 6. 子宮摘出に伴う胎児の死	渡部麻衣子	倫理学
8	ケース 7. ワクチン投与の優先順位	渡部麻衣子	倫理学
9	ケース9. 安楽死	渡部麻衣子	倫理学
10	まとめ	渡部麻衣子	倫理学

○評価の方法

試験50%、レポート50%

○履修上の注意

授業内で提示する。

科目番号	科 目 名	責 任 者	学 年
L1118-9	国家とは何か	小野純一	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [水・5] 時限 [D]

○授業形式 講義・演習・実習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

あらためて「国家とは何か」と問うことに奇異な感じを抱かれる人もいるであろう。すでに日本という国は現に存在しているし、またその機能も十分に発揮されていると思われるからである。すなわち憲法ならびに各種の法令に基づいて議院内閣制が行われ、基本的人権を保護しつつ、教育、税の徴収、公共事業、警察・消防・医療などの機能により、総じて社会が円滑に活動できるような組織と機能を発揮していると考えられるからである。しかしたとえばここで定義される国民とはどのような人をいうのであろうか。また国民主権に基づいて国家が成立していると考えられる。特に貿易の及ぶ範囲はどこまでなのであろうか。これに対して国家主権という概念も考えられる。特に貿易や安全保障、危機管理といった側面では国家は国際社会の中で一定の意思表示や行動を選択することになる。つまり極端な場合や国家は戦争や国民の行動に対する取り締まりといった強制と暴力を行使しうる存在であり、そこで特定の国民との間に対立を生じさせる可能性がある。つまり誰のための国家かという問いも存在しうる。本科目では、あらためて国家という概念が歴史的にどのようなものかを生じたものかを振り返りつつ、そこから日本という国家が抱える特殊性と課題とを概観しようとする。もとより特定の政治的立場を標榜するものではないので、一定の解決や方向性を示すことはないが、出来るだけ受講者の疑問を共有しながらディスカッションすることを通じて、日本の社会が抱える課題を明らかにしていきたい。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-8 科学的探究

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

Ⅲ-1-1 総合的・科学的かつ沈着冷静に課題を探求・解決する態度と能力

○教科書

カント『永遠平和のために』岩波文庫、資料配付

○参考書

坂本多加雄『国家学のすすめ』ちくま新書、萱野稔人『国家とはなにか』以文社

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	人はなぜ人を殺してはいけないか (1)	加藤直克	外来講師
2	人はなぜ人を殺してはいけないか (2)	加藤直克	外来講師
3	人はなぜ人を殺してはいけないか (3)	加藤直克	外来講師
4	命を懸けても守るべきものはあるか	加藤直克	外来講師
5	CountryとNationとState、国家の起源	加藤直克	外来講師
6	カント『永遠平和のために』、国際法	加藤直克	外来講師
7	帝国主義、世界大戦、安全保障	加藤直克	外来講師
8	国民の教育と言語、移民と難民	加藤直克	外来講師
9	あらためて日本という国を問う (1)	加藤直克	外来講師
10	あらためて日本という国を問う (2)	加藤直克	外来講師

○評価の方法

出席を含め、ディスカッションなど授業への参加度とレポート

○履修上の注意

授業内で伝える

科目番号	科目名	責任者	学年
L1119-1	はじめての哲学	小野純一	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [B] [1] 学期 [水・1] 時限 [C]
 [1] 学期 [木・2] 時限 [E] [2] 学期 [火・1] 時限 [G]
 [2] 学期 [水・1] 時限 [I] [2] 学期 [木・1] 時限 [K]

○授業形式 講義

○履修定員 [10] 名

○ねらい

この授業では、ことばの意味と心、人間、状況、世界との関わりについて考えます。知るとはいかなる事態なのか、言葉の意味のはたらきは人に何をもたらすのか、意志や理由、行為、観察によらない知識、自己と他者とのかかわり、時間、同一性と変化、価値とは何かといった主題を論じ、また議論し、哲学的に思考することを目指します。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

Ⅲ-1-2 自分の能力の限界を認識し適切な専門家に対して助言を求める習慣

○教科書

資料配布。

○参考書

各回の主題ごとに文献を紹介する。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	不条理	小野純一	哲学
2	懐疑	小野純一	哲学
3	二元論	小野純一	哲学
4	アイデンティティ	小野純一	哲学
5	自由意志	小野純一	哲学
6	道徳	小野純一	哲学
7	善	小野純一	哲学
8	虚無	小野純一	哲学
9	過去・現在・未来	小野純一	哲学
10	まとめ	小野純一	哲学

○評価の方法

授業中の読解、議論、ミニレポート

○履修上の注意

なし

科目番号	科目名	責任者	学年
L1119-2	哲学の入門	小野純一	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [火・2] 時限 [A]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

この講義では哲学の思考法を学ぶことを目的とします。簡単な哲学の文章を読みながら、自分で思考するとはどういうことかを理解することを目指します。具体的には、現代の学問の基礎を形成した人類史上最大の天才の一人であるG.W.ライプニッツの『モナドロジー』を取り上げます。この本は一般の読者向けに、ライプニッツが自分の哲学的な立場を短い文章で描いたものです。授業ではこの『モナドロジー』に補足説明を加えながら、文学や舞台作品、映画などを参照しつつ、皆さんと読んでいきたいと思えます。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

Ⅲ-1-2 自分の能力の限界を認識し適切な専門家に対して助言を求める習慣

○教科書

配布資料

○参考書

G.W.ライプニッツ『モナドロジー』谷川多佳子、岡部英夫訳、岩波文庫、2019年。

Nicholas Rescher "G.W.Leibiz's Monadology" Routledge, 2014.

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	導入 G.W.ライプニッツとは誰か	中山純一	哲学
2	『モナドロジー』というテキストについて	中山純一	哲学
3	「単純実体」とは何か ——『モナドロジー』第1～11節	中山純一	哲学
4	「表象」、「欲求」とは何か ——『モナドロジー』第12～28節	中山純一	哲学
5	「必然的真理」と「偶然的真理」について ——『モナドロジー』第29～39節	中山純一	哲学
6	「神」と「最善世界」について ——『モナドロジー』第40～55節	中山純一	哲学
7	「モナド」の鏡映について ——『モナドロジー』第56～62節	中山純一	哲学
8	有機体としての「モナド」 ——『モナドロジー』第63～76節	中山純一	哲学
9	神学としての『モナドロジー』 ——『モナドロジー』第77～90節	中山純一	哲学
10	まとめ・最終課題	中山純一	哲学

○評価の方法

授業での取り組み (40%)、最終課題 (60%)

○履修上の注意

なし

科目番号	科目名	責任者	学年
L1119-3	言語文化入門I (アラビア)	小野純一	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [火・2] 時限 [A] [1] 学期 [木・3] 時限 [F]
[2] 学期 [木・2] 時限 [L]

○授業形式 演習

○履修定員 [10] 名

○ねらい

この授業は各回ともアラビア語入門として語学に加え、アラビア語文化圏の紹介を行います。アラビア語は世界で3番目に多くの地域で話される国連の公用語です。ロシアと同じくらいの面積を占める西アジアから北アフリカで話されます。文字記録は1600年前からあり、人類に学術用語を提供した数少ない古典語の一つ（他にラテン語、サンスクリット、中国語）として、現在もさらに重要性を増す国際的共通語です。アラビア語が文化形成に直接影響した地域はインドや中国、アフリカ、ヨーロッパなど、ユーラシア大陸全域とアフリカ大陸の北半分、東南アジア諸島に及びます。例えば17世紀までヨーロッパ医学の教科書だった『医学典範』原典はアラビア語ですし、哲学や数学、自然科学の専門用語もアラビア起源が多くあります。この授業ではアラビア文字を覚え、アラビア語会話のごく初歩を学び、アラビア語文化圏の言語、思想、芸術、音楽、建築、食文化などに触れることを目指します。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

なし (プリントを配布)

○参考書

新妻仁一『アラビア語文法ハンドブック』白水社、2009年

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	アラビア文化の起源／文字・名詞文	小野純一	哲学
2	アラビア語の特徴／疑問文・名詞の性	小野純一	哲学
3	アラビア文化とイスラーム／非限定・形容詞の性	小野純一	哲学
4	アラビア文化とベルシア／指示代名詞	小野純一	哲学
5	アラビア文化とユダヤ／冠詞とワスラ記号	小野純一	哲学
6	アラビア文化とヨーロッパ／ニスバ形容詞	小野純一	哲学
7	アラビア文化とインド／完了形と格	小野純一	哲学
8	アラビア文化と中国／所有表現と前置詞	小野純一	哲学
9	アラビア文化と東南アジア／人称、副詞	小野純一	哲学
10	アラビア文化とアフリカ／未完了	小野純一	哲学

○評価の方法

授業参加態度、出席、課題によって評価する。

○履修上の注意

なし

科目番号	科目名	責任者	学年
L1119-4	言語文化入門Ⅱ（アラビア）	小野純一	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [火・2] 時限 [H]

○授業形式 演習

○履修定員 [10] 名

○ねらい

この授業は各回ともアラビア語入門として語学に加え、アラビア語文化圏の紹介を行います。アラビア語は世界で3番目に多くの地域で話される国連の公用語です。ロシアと同じくらいの面積を占める西アジアから北アフリカで話されます。文字記録は1600年前からあり、人類に学術用語を提供した数少ない古典語の一つ（他にラテン語、サンスクリット、中国語）として、現在もさらに重要性を増す国際的共通語です。アラビア語が文化形成に直接影響した地域はインドや中国、アフリカ、ヨーロッパなど、ユーラシア大陸全域とアフリカ大陸の北半分、東南アジア諸島に及びます。例えば17世紀までヨーロッパ医学の教科書だった『医学典範』原典はアラビア語ですし、哲学や数学、自然科学の専門用語もアラビア起源が多くあります。この授業ではアラビア文字を覚え、アラビア語会話のごく初歩を学び、アラビア語文化圏の言語、思想、芸術、音楽、建築、食文化などに触れることを目指します。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

なし（プリントを配布）

○参考書

新妻仁一『アラビア語文法ハンドブック』白水社、2009年

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	思想／非定型複数、否定	小野純一	哲学
2	哲学／接続法	小野純一	哲学
3	科学／比較級・最上級	小野純一	哲学
4	書道／動詞	小野純一	哲学
5	音楽／義務、許可	小野純一	哲学
6	都市／動詞の用法	小野純一	哲学
7	建築／命令	小野純一	哲学
8	映画／派生形動詞、色	小野純一	哲学
9	文学／数詞（1）	小野純一	哲学
10	料理／数詞（2）	小野純一	哲学

○評価の方法

授業参加態度、出席、課題によって評価する。

○履修上の注意

この授業では、言語文化入門Ⅰ（アラビア）を履修し、文字が読み書きできる人を対象にします。

科目番号	科 目 名	責 任 者	学 年
L1122-1	臨床心理学	菊 地 元 史	1 学 年

○開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [E]

[1] 学期 [木・3] 時限 [F]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

臨床心理学は、人間の心の健康維持、適応、発達、自己実現などを援助するために、心の問題を理解する枠組みと、その問題への介入方法を探究する心理学の一分野です。講義では臨床心理学の基礎的知識を学び、臨床心理学が対象とする心の問題について考えを深めます。現代社会には様々な心の問題が溢れています。それらへの理解を深め、対処法を知ることは人として、医師として重要です。講義を通じて臨床に生きる心理学を学び、心の問題について改めて考える機会を持ってください。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-8 科学的探究

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

IV-1-7 臨床疫学、EBM、NBM、行動科学についての知識と実践

○教科書

必要に応じてプリントを配布する。

○参考書

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	臨床心理学総論	高 瀬 堅 吉	心 理 学
2	臨床心理学各論	高 瀬 堅 吉	心 理 学
3	臨床心理学各論	高 瀬 堅 吉	心 理 学
4	臨床心理学各論	高 瀬 堅 吉	心 理 学
5	臨床心理学各論	高 瀬 堅 吉	心 理 学
6	臨床心理学各論	高 瀬 堅 吉	心 理 学
7	臨床心理学各論	高 瀬 堅 吉	心 理 学
8	臨床心理学各論	高 瀬 堅 吉	心 理 学
9	臨床心理学各論	高 瀬 堅 吉	心 理 学
10	テスト	高 瀬 堅 吉	心 理 学

○評価の方法

出席、受講態度、およびテスト

○履修上の注意

特になし

科目番号	科目名	責任者	学年
L1122-2	臨床発達心理学	菊地元史	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [火・1] 時限 [G]

[2] 学期 [火・2] 時限 [H]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

臨床発達心理学は、ヒトの生涯にわたる生物・心理・社会的側面からなる生活文脈の場の中で起こり得る、さまざまな兆候・問題・障害を包括した時間的・発生的な過程から、人間の心のメカニズムの解明を行い、また、そのことを通して、具体的発達支援の方法論の検討を行う心理学の一分野です。臨床心理学と臨床発達心理学との明確な違いはその成り立ちにあります。臨床心理学が臨床の現場から生まれた理論や技法に依拠して学問を構築してきたのに対し、臨床発達心理学は基礎心理学を臨床に適用する視座で学問を構築しました。講義を通じて心理学における基礎的知見の臨床応用の様相を学び、心の問題について改めて考える機会を持ってください。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

II-1-4 人間に作用する様々な因子と人体の反応についての知識

○教科書

必要に応じてプリントを配布する。

○参考書

特になし

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	臨床発達心理学総論	高瀬堅吉	心理学
2	臨床発達心理学各論	高瀬堅吉	心理学
3	臨床発達心理学各論	高瀬堅吉	心理学
4	臨床発達心理学各論	高瀬堅吉	心理学
5	臨床発達心理学各論	高瀬堅吉	心理学
6	臨床発達心理学各論	高瀬堅吉	心理学
7	臨床発達心理学各論	高瀬堅吉	心理学
8	臨床発達心理学各論	高瀬堅吉	心理学
9	臨床発達心理学各論	高瀬堅吉	心理学
10	テスト	高瀬堅吉	心理学

○評価の方法

出席、受講態度、およびテスト

○履修上の注意

特になし

科目番号	科目名	責任者	学年
L1123-1	心理アセスメント論	菊地元史	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [木・1] 時限 [K]

[2] 学期 [木・2] 時限 [L]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

心理アセスメントとは、人間の心を正確にとらえるための測定手法のことです。有史以来、様々なアセスメント技法が開発されてきましたが、客観的な測定を目指した標準化された心理検査が登場したのは1905年のビネー式知能検査が初めてでした。今日、心理アセスメントは臨床や教育の現場で汎用されていますが、その実践には多くの課題が山積しています。本講義では人の心理アセスメントの基礎知識を学びます。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-8 科学的探究

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

Ⅲ-1-1 総合的・科学的かつ沈着冷静に課題を探究・解決する態度と能力

○教科書

必要に応じてプリントを配布する。

○参考書

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	心理アセスメント総論	高瀬堅吉	心理学
2	心理アセスメント各論	高瀬堅吉	心理学
3	心理アセスメント各論	高瀬堅吉	心理学
4	心理アセスメント各論	高瀬堅吉	心理学
5	心理アセスメント各論	高瀬堅吉	心理学
6	心理アセスメント各論	高瀬堅吉	心理学
7	心理アセスメント各論	高瀬堅吉	心理学
8	心理アセスメント各論	高瀬堅吉	心理学
9	心理アセスメント各論	高瀬堅吉	心理学
10	テスト	高瀬堅吉	心理学

○評価の方法

出席、受講態度、およびテスト

○履修上の注意

特になし

科目番号	科 目 名	責 任 者	学 年
L 1 1 3 4	文学への誘い	吹 田 映 子	1 学 年

○開講時期 [1] 学期 [水・5] 時限 [D]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [15] 名

○ねらい

このクラスでは、ジャンルも（小説・詩・エッセイ・批評・断章・分類不能等々…）ことばの質も異なる近・現代文学作品の数々に、できる限りふれてもらいたいと思います。とはいえごく短いものあるいは抜粋を授業2回で一つ読めたとして、全部で5篇ほどできたら精一杯でしょうか。配布テキストを予め読んでくることを前提に読解をこころみます。読解、なのですが、作品が解けるもの、理解可能であるとは自明ではありません。ただことばを読む、読むことが経験である——生きるのと同じくまた別様に——、そうした場になることがこのクラスのねらいであり願いです。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

テキストのコピーをその都度配布します。

○参考書

なし

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	フランツ・カフカ「父の気がかり」（1917年、小説）	鈴木俊弘	外来講師
2	梶井基次郎「冬の日」（1927、小説）	鈴木俊弘	外来講師
3	アンドレ・ドテル「大使さま」（1959、小説）	鈴木俊弘	外来講師
4	倉田比羽子『世界の優しい無関心』（2005、詩）	鈴木俊弘	外来講師
5	古賀忠昭『血のたらちね』（2007、詩）	鈴木俊弘	外来講師
6	吉田健一『時間』（1976、エッセイ）	鈴木俊弘	外来講師
7	稲川方人「郷里が避難区域になったら、俺はそこに戻って被曝しながら抵抗するよと、オーストラリアン・リトルホースに耳打ちした」（2012、エッセイ）	鈴木俊弘	外来講師
8	丹生谷貴志「天皇と文学」（1999、批評）	鈴木俊弘	外来講師
9	高橋悠治「[カフカ] ノート」（1986、断章・メモ）	鈴木俊弘	外来講師
10	ジョルジュ・バタイユ『太陽肛門』（1931、？）	鈴木俊弘	外来講師

○評価の方法

授業中の読解への参加、期末レポート

○履修上の注意

上記の内容・項目の作者と作品名は候補リストであり、この順序で全てを読むわけではなく、また変更の可能性もあります。

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 1 3 5	文学的探索	吹田 映子	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [水・3] 時限 [J]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [15] 名

○ねらい

＜俳句と欧米の詩人たちが＞がテーマです。私たちの多くは俳句に対し、高校までの国語で（教科書的解説もあつてか）面白いとも思えなくなっているかもしれませんが。がたとえば国外に目を向けると、20世紀初頭から西欧世界に紹介されて日本を出て行った俳句はこの一世紀来、特にその後半に、西欧とUSAの一部の詩人たちに本質的な詩的衝撃を与えてきました。芭蕉は人類史上の大詩人とみなされ、クロアチア語やネパール語やアラビア語その他で書く俳人たちが現れている現在では、グローバル化を続ける俳句は普遍的な短詩型となりつつあるかのようです。そうしてこの世界化した俳句は自分の出自を気かけたり愛国的に誇ったり、師匠面する風もありません——第一ほとんど誰も日本語で俳句を読んでなどいないのです。授業では、(1) 翻訳俳句の欧米詩人への衝撃と、(2) 翻訳され他者の言語／言語的他者として再生あるいは再創造されて戻ってきた俳句が、今度は私たち（日本語ネイティブ）に与えてくれる俳句の「発見」に焦点を合わせます。具体的には20世紀後半の①いくつかの英語訳・仏語訳俳句と、②それを読んでショックを受けた仏語・米語詩人たちの短詩と俳句論、③俳句と眼差しを交わし合うような他の西欧詩作品、の読解に、④近現代の日本人による俳句へのアプローチを挿入してみます。俳句とその翻訳と欧米詩とのあいだを行き来することで発生する＜ポエジー＞の気圏を感じてもらうことがこのクラスのねらいです。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

テキスト・資料をその都度配布します。

○参考書

授業時に紹介します。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	I 翻訳という創造 (1) 英語訳：世界化の発火点——R・H・ブライス	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
2	(2) 仏語訳：ルネ・シフェール、モリス・クワイヨ	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
3	II 翻訳俳句の詩的衝撃：フランス語圏とUSAの詩人たちの俳句論と詩作品 (1) 俳句論：イヴ・ボヌフォワ、フィリップ・ジャコテ、ロジェ・ミュニエ	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
4	(2) 仏語詩：ボヌフォワ、ジャコテ、アンヌ・ペリエ、R・M・リルケ	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
5	(3) 米語詩：“American Haiku”（ジャック・ケルアック）、 “American Sentence”（アレン・ギンズバーグ）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
6	間奏：他芸術へのインスピレーション——ジュアン・ミロ（美術）、ピーター・ガーランド（音楽）	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
7	III 日本からのアプローチ (1) 俳句を語ることの（不）可能性：太宰治、山本健吉	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
8	(2) 俳句の日本語訳：西脇順三郎	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
9	(3) 禪的読解：鈴木大拙、有吉豊太郎	鈴木 俊 弘	外 来 講 師
10	(4)「発句 [= 俳句] はきらひである」：柳田國男の連歌論	鈴木 俊 弘	外 来 講 師

○評価の方法

授業への参加、期末レポート

○履修上の注意

・上記内容・項目は全体的見取り図であり、限られた授業時間内では部分的にしか取り上げることができません。
・英語訳俳句と米語短詩は英語で、仏語訳俳句と仏語詩は基本的にその日本語訳で読みます（俳句には日本語の原句を付します）。仏語既習で仏語原文にチャレンジしたい方には対応します。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1140-1	医学古典語 I	小野純一	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [水・5] 時限 [D]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

医学用語のうち解剖用語はラテン語語源のものが多いが、一般的な医学用語、すなわち臨床や医学論文で用いられる用語はギリシャ語語源のものが多い。医学古典語は現在の医学における国際語である英語での臓器、身体部位、疾患等について、ギリシャ語およびラテン語由来の表現の構造と意味とをシステムティックに学ぶことを目標とする。具体的には、接頭辞、語根、接尾辞という構成要素を学ぶが、これは漢字における偏と旁を知ることによって語の成り立ちを推測しつつ、効果的に記憶していく方法に類似しているといえる。代表的な接頭辞、語根を学ぶことにより、医学のみならず、一般の英語語彙も飛躍的に増やすことができることを実感していただきたい。また、同時に医学用語の発音とアクセントをしっかりと学ぶことで一般的な英語の綴りと発音についてもあらためて学ぶことができる。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

IV-1-8 医療科学 (医療放射線、理学療法、看護、臨床工学) についての知識

○教科書

G.L.Smith/P.E.Davis 『プログラム学習による医学用語の学び方 第2版』 裏田武夫訳、医学書院、資料配付

○参考書

適宜プリントを配布する。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
2	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
3	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
4	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
5	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
6	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
7	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
8	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
9	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
10	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学

○評価の方法

各回でミニテストを行い、その総合点で評価します。

○履修上の注意

医学古典語 I の履修希望者は医学古典語 II も併せて履修することを勧めます。I だけではその知識は断片的で記憶に定着せず、応用力まではとても望めないからです。なお医学古典語 II だけを履修することはできません。

科目番号	科 目 名	責 任 者	学 年
L1140-2	医学古典語Ⅱ	小野純一	1 学 年

○開講時期 [2] 学期 [水・3] 時限 [J]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

医学用語のうち解剖用語はラテン語語源のものが多いが、一般的な医学用語、すなわち臨床や医学論文で用いられる用語はギリシャ語語源のものが多い。医学古典語は現在の医学における国際語である英語での臓器、身体部位、疾患等について、ギリシャ語およびラテン語由来の表現の構造と意味とをシステムティックに学ぶことを目標とする。具体的には、接頭辞、語根、接尾辞という構成要素を学ぶが、これは漢字における偏と旁を知ることによって語の成り立ちを推測しつつ、効果的に記憶していく方法に類似しているといえる。代表的な接頭辞、語根を学ぶことにより、医学のみならず、一般の英語語彙も飛躍的に増やすことができることを実感していただきたい。また、同時に医学用語の発音とアクセントをしっかりと学ぶことで一般的な英語の綴りと発音についてもあらためて学ぶことができる。医学古典語ⅡはⅠに引き続いて、より多くの臨床用語、解剖用語を学ぶとともに、基本的な造語要素についての知識の定着を目指す。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

IV-1-8 医療科学 (医療放射線、理学療法、看護、臨床工学) についての知識

○教科書

G.L.Smith/P.E.Davis 『プログラム学習による医学用語の学び方 第2版』 裏田武夫訳、医学書院、資料配付

○参考書

適宜プリントを配布する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
2	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
3	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
4	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
5	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
6	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
7	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
8	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
9	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学
10	医学用語の語義と造語法、発音	小野純一	哲 学

○評価の方法

各回でミニテストを行い、その総合点で評価します。

○履修上の注意

すでに医学古典語Ⅰを履修している人が対象です。医学古典語Ⅱだけを履修することはできません。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1150	高齢社会論	青山泰子	1学年

○開講時期 [1] 学期 [水・5] 時限 [D]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

高齢化が進む社会で何が起きているのか。この講義では、介護問題に加え、高齢者を対象とした施設やサービス、住まい方、看取りの問題など、医師として必要な高齢社会の基礎的知識を得る。また介護食や高齢者疑似体験、自助具の操作などの体験実習を通して、高齢者との接し方や配慮すべきポイントを自らの経験の中で学ぶ。

高齢化が進む地域社会におけるリーダーには、住民の生活の実態に基づき、他職種と連携しながら、保健・医療・福祉をトータルでとらえる力が求められる。超高齢社会に医師としてかかわる学生たちに、今必要とされる知識と技術を吸収して、将来リーダーシップを発揮してほしい。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-4 病気とともに、病人とその家庭や地域に強い関心を持ちこれらを支援の対象とする姿勢をもつ

○教科書

特に指定はせず、毎回資料を配布する。

○参考書

自治医科大学監修, 地域医療テキスト, 医学書院, 2009.

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	超高齢社会の変動と現状	青山泰子	社会学
2	高齢者と介護問題—介護食体験—	青山泰子	社会学
3	高齢者の生活と福祉施設—認知症を考える—	青山泰子	社会学
4	福祉サービスの種類と特性—自助具に触れる—	青山泰子	社会学
5	高齢期の住まい方—フレイルに対応する—	青山泰子	社会学
6	看取りを考える	青山泰子	社会学
7	高齢者疑似体験 (1)	青山泰子	社会学
8	高齢者疑似体験 (2)	青山泰子	社会学
9	高齢社会を支える仕組み—地域包括ケアを考える—	青山泰子	社会学
10	講義と体験実習の振り返り、補足と総括	青山泰子	社会学

○評価の方法

授業中の課題、体験レポート、受講態度により総合的に評価する。

メディア授業を部分的に導入する。

○履修上の注意

特になし

科目番号	科目名	責任者	学年
L1151	社会を診る方法	青山泰子	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [火・2] 時限 [A]

[2] 学期 [木・1] 時限 [K]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

世の中には、さまざまな情報が溢れていて、私たちは日常的にそれを取捨選択して生活している。正当な調査手続きを踏んだ信頼性の高い情報もあるが、中にはかなり怪しい情報も含まれる。この講義は、溢れる情報に疑いの目を持ち、多角的な観点から社会を診断する目を養う。

授業の前半では、さまざまな情報の基になる社会調査の基礎を学びつつ、思い込みを捨て、因果関係を考えるトレーニングを行う。後半では、実際に起きた事件、社会現象、歴史上の出来事を素材として、報道のされ方、映像が持つ力、情報が我々に与える影響力の考察を通して、的確な状況判断に基づいて行動する力を養う。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-8 科学的探究

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

Ⅲ-1-1 総合的・科学的かつ沈着冷静に課題を探求・解決する態度と能力

○教科書

特に指定はせず、毎回資料を配布する。

○参考書

「情報社会に生きる」医と知の航海, 永井良三監修, 自治医大総合教育編, 西村書店, 2016.

社会調査へのアプローチ 第2版-論理と方法, 大谷信介ほか, ミネルヴァ書房, 2005.

メディアは私たちを守れるか?, 木村朗編著, 凱風社, 2007.

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	社会を診る —情報の取捨選択—	青山泰子	社会学
2	思い込みを捨てる	青山泰子	社会学
3	因果関係を考える	青山泰子	社会学
4	社会調査の基礎 —種類と方法—	青山泰子	社会学
5	量的質的データの特質と扱い方	青山泰子	社会学
6	報道のされ方を考える	青山泰子	社会学
7	社会的ネットワークと対人関係	青山泰子	社会学
8	映像が持つ力	青山泰子	社会学
9	人間の営みを診る・伝える	青山泰子	社会学
10	データを扱う者の責務と心構え	青山泰子	社会学

○評価の方法

授業中の課題の合計、受講態度により総合的に評価する。

メディア授業を部分的に導入する場合がある。

○履修上の注意

特になし

科目番号	科目名	責任者	学年
L1153	医療人類学	田中大介	1学年

○開講時期 [1] 学期 [木・3] 時限 [F]

[2] 学期 [木・2] 時限 [L]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

医療人類学とは文化人類学における下位領域の一つであり、疾病や健康に関する社会－文化的側面を扱うものとして位置づけられる。一方で医療人類学の研究対象は極めて多岐にわたり、たとえば各地の社会における民間療法的な実践から最先端の医療テクノロジーをめぐる動向に至るまで射程に含むことに加えて、「病い」の概念や医療の制度的変遷など広汎な問題群に関心が向けられている。これらの学術的傾向を踏まえて、この授業ではまず医療人類学の統一的な輪郭を象る基礎知識を学び、さらに現代の医療をめぐる個別の問題をケース・スタディとして議論しながら、特に今後の地域医療にとって必要不可欠とも言える人類学的視座の獲得を目指す。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

なし。毎回の授業で資料を配布する。

○参考書

なし。参考する文献・論文等がある場合は授業内で別途指示する。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	医療とケアの概念	田中大介	文化人類学
2	医療とコミュニケーション (1)	田中大介	文化人類学
3	医療とコミュニケーション (2)	田中大介	文化人類学
4	医療とコミュニケーション (3)	田中大介	文化人類学
5	ライフコースの視座	田中大介	文化人類学
6	健康と病い (1)	田中大介	文化人類学
7	健康と病い (2)	田中大介	文化人類学
8	医師と患者の関係性 (1)	田中大介	文化人類学
9	医師と患者の関係性 (2)	田中大介	文化人類学
10	医療と社会保障	田中大介	文化人類学

○評価の方法

全講義の出席を前提とする。授業中の質疑応答やディスカッション、およびレポートなどによって総合的に評価を行う。

○履修上の注意

特になし。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1154	異文化理解入門	田中大介	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [火・2] 時限 [A] [1] 学期 [火・3] 時限 [B]
 [1] 学期 [水・1] 時限 [C] [1] 学期 [水・5] 時限 [D]
 [2] 学期 [火・1] 時限 [G] [2] 学期 [火・2] 時限 [H]
 [2] 学期 [水・1] 時限 [I]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

異文化理解は如何にして可能か、その基本的な見方を考えるのが本講義の目的である。また、本講義は「医療人類学」「文化人類学」「社会学」などへの入門講義という意味も持つ。講義は「文化」にはどのような定義がなされているのかという枠組みづくりから始め、異文化の事例（アフリカ、アラブ、アジア、北米先住民等）を使いながら、「文化」について多様なものの見方の基礎を学んでいく。その過程で、学生自身が「文化」についてそれぞれの答えを出していくこと、さらには異文化の理解を妨げる「自文化」の存在とその影響力に目を向けて自分の所属する「文化」を相対的に捉えることを目指す。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

渥美一弥 『「共感」へのアプローチ:文化人類学への第一歩』（春風社）

○参考書

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	「文化」の定義	渥美一弥 田中大介	外来講師 文化人類学
2	「文化」と言語の関係	渥美一弥 田中大介	外来講師 文化人類学
3	ジェンダーと「文化」	渥美一弥 田中大介	外来講師 文化人類学
4	婚姻と「文化」	渥美一弥 田中大介	外来講師 文化人類学
5	通過儀礼について	渥美一弥 田中大介	外来講師 文化人類学
6	「文化」と「自然」「環境」について	渥美一弥 田中大介	外来講師 文化人類学
7	「文化」とシンボル	渥美一弥 田中大介	外来講師 文化人類学
8	「文化」の機能主義的理解と構造主義的理解	渥美一弥 田中大介	外来講師 文化人類学
9	他者を「シンボル化」・「記号化」するとはどのようなことか	渥美一弥 田中大介	外来講師 文化人類学
10	「文化」と病・死について	渥美一弥 田中大介	外来講師 文化人類学

○評価の方法

全講義出席を前提として、授業中の発言内容や積極性を基にテイクホーム試験の結果と総合して評価する。

○履修上の注意

D（1学期・水曜日・5時限）のみ田中が担当し、その他の時間割は渥美が担当する予定である。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1155	社会学概論	田中大介	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [E]

[2] 学期 [木・1] 時限 [K]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

社会学の基礎用語を紹介しながら、社会学のものの見方の基本を理解していくのが本講義の目標である。社会学者バーガーによれば、社会学は自分の生きている社会にある諸制度の「当たり前」を「暴き出すこと」または「仮面をはがすこと」という「暴露戦略」にある。ここでいう暴露戦略とは、我々が日常無意識に「当たり前」として「世界」を見ているその見方を分解・解体して、その成立のメカニズムを理解することを意味している。言い換えれば、「常識」を相対化することを目指しているのである。そこで、ここでは「権力」というキーワードの基に事例を紹介していく。ここで言う「権力」とは、いわゆる国家権力といった具体的な事柄ではなく、「他人の意思を無視してまでも自分の意思を貫き通そうとするあらゆる可能性」ということになしておく。授業では、参加者と共にさまざまな事例について話し合いながら、それぞれがこれまで自明としていた事柄に関する「気づき」を積み重ね、人間と社会もしくは自己自身を新たに理解し直すことを試みる。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

適宜、資料を配布する。

○参考書

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	「権力」とは何か？日本の事例を通して	渥美一弥	外来講師
2	人間関係における「構造」とは何か？	渥美一弥	外来講師
3	「地位」と「役割」	渥美一弥	外来講師
4	「交換」と人間関係について	渥美一弥	外来講師
5	「象徴」と意味について (言語と人間、民族と宗教)	渥美一弥	外来講師
6	「権力」と「権威」(社会学は権力をどう捉えてきたか)	渥美一弥	外来講師
7	「階級」「階層」「身分」(一見権力者よく見ると服従者)	渥美一弥	外来講師
8	「合理化」とは (「時間」と「人間」)	渥美一弥	外来講師
9	「学校」と社会 (教育と権力について)	渥美一弥	外来講師
10	「医療」と社会 (普通であることの権力性)	渥美一弥	外来講師

○評価の方法

全講義出席を前提として、授業中の発言内容や積極性を基にテイクホーム試験の結果と総合して評価する。

○履修上の注意

講義の初日に参考文献一覧表を配布する。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1156	文化人類学概論	田中大介	1学年

○開講時期 [2] 学期 [水・3] 時限 [J]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

我々は誰しも自分のことは自分が最もよく知っていると思いがちだが、自分という存在がどのような文化のなかで生きてきたかを省みる機会は少ない。だからこそ我々は「自己・自文化」と「他者・異文化」の間をつなぐ思考をどこかの時点で築き上げておく必要があり、同時にその思考は今後の地域医療を担う者にとって必要な資質でもある。この目論見に沿って、本授業では人間・社会・文化を深く見つめていくための視点と知識を、文化人類学の基礎理論や各地の文化的事象を通じて獲得することを目指す。また、学説史の理解なども重視するが、知識の摂取だけを重視するのではなく、文化人類学の流儀と技法を応用していくためのケース・スタディも盛り込む予定であり、全10回を通じて「自文化と異文化」を往復できる実践的な視点を深めていく。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

なし。毎回の授業で資料を配布する。

○参考書

なし。参考する文献・論文等がある場合は授業内で別途指示する。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	人間・社会・文化	田中大介	文化人類学
2	文化人類学とは何か (1)	田中大介	文化人類学
3	文化人類学とは何か (2)	田中大介	文化人類学
4	文化人類学の黎明期	田中大介	文化人類学
5	新進化主義	田中大介	文化人類学
6	フィールドワークの神様と呼ばれた男	田中大介	文化人類学
7	機能主義のひろがり	田中大介	文化人類学
8	構造主義と人間観	田中大介	文化人類学
9	自文化／異文化の理解に向けて	田中大介	文化人類学
10	まとめ	田中大介	文化人類学

○評価の方法

全講義の出席を前提とする。授業中の質疑応答やディスカッション、およびレポートなどによって総合的に評価を行う。

○履修上の注意

特になし。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1157	医療と民俗学	菊地元史	1学年

○開講時期 [2] 学期 [火・1] 時限 [G]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

日本人はいかに病と向き合ってきたのか、日本民俗学でこれを理解しようとするのが本講義の目的である。講義は民俗学の入門からはじまり、医療と民俗学のあゆみ、そしてこれまで、日本人が病に対してどのような民俗的想像力をもって接し、対処してきたかを通観する。民俗学は、自己内省の学ともされる。そしてその資料収集には、医師の問診同様、話者との対面調査という手法が用いられる。自らの立ち位置を知り、互いの信頼関係のなかで、はじめて理解しうることが多い学問でもある。各自が民俗学を通して、自分の足もとを見つめ直し、他との共通理解を深めることができることをめざす。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-4 病気とともに、病人とその家庭や地域に強い関心を持ちこれらを支援の対象とする姿勢をもつ

○教科書

適宜、資料を配布する。

○参考書

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	「来るな」と「出て行け」	立石尚之	外来講師
2	民俗学とはどんな学問か	立石尚之	外来講師
3	民俗文化の分類と内容	立石尚之	外来講師
4	医療と民俗学のあゆみ	立石尚之	外来講師
5	病を見るまなざし	立石尚之	外来講師
6	疫神よ去れ	立石尚之	外来講師
7	河童の伝授した薬	立石尚之	外来講師
8	祈願と医療	立石尚之	外来講師
9	絵にあらわして見ること	立石尚之	外来講師
10	病や悪しきものとのつきあい方	立石尚之	外来講師

○評価の方法

出席、受講態度、およびレポート

○履修上の注意

特になし。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1158-1	メディアと社会	山邊昭則	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [木・3] 時限 [F]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

本授業では、幅広い観点から、現代の必須の素養であるメディアリテラシーを学びます。マスメディア／ソーシャルメディアの社会的影響の拡大について、国際社会の動向から身近な問題まで、様々な事例を通じて理解を深め、また、テレビ局の制作者から番組ができるまでのプロセスを学ぶ機会を設けます。さらに、番組企画書を自ら作成し、そのプロフェッショナルから添削を得ることのできるアクティブラーニングは、社会の潜在的なニーズや受け手の心を多角的に理解することにつながる貴重な機会といえるでしょう。これからの時代を生きる医師は、メディアを適切かつ効果的に活かすことにより、患者と地域に寄り添った医療を展開できる可能性が広がっています。本授業を通じて、新しい感性とともに地域社会へ貢献していく医師としての素養を身につけます。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

特に指定しない。

○参考書

視聴覚資料を含め、授業のなかで多数紹介します。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	授業の進め方／受講の留意事項等	山邊昭則	学生生活支援センター
2	メディアの誕生と変遷	山邊昭則	学生生活支援センター
3	マスメディアとソーシャルメディア	山邊昭則	学生生活支援センター
4	“Fake News” という時代	山邊昭則	学生生活支援センター
5	情報の倫理と法 (国際・国内事例)	山邊昭則	学生生活支援センター
6	番組ができるまで (外来講師と協同)	山邊昭則	学生生活支援センター
7	地域社会とメディア (外来講師と協同)	山邊昭則	学生生活支援センター
8	番組企画書を創る (外来講師と協同)	山邊昭則	学生生活支援センター
9	新しい時代を生きるためのメディアリテラシー	山邊昭則	学生生活支援センター
10	授業全体のまとめ	山邊昭則	学生生活支援センター

○評価の方法

学習プロセスの形成的評価と課題による総括的評価。(期末試験は実施しません。)

○履修上の注意

出席と授業への主体的な姿勢を重視します。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1158-2	科学と社会	山邊昭則	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [火・2] 時限 [H]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

近年、私たちの社会は、Society 5.0 と表現されます。狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、新たな社会の在り方を指すもので、科学技術基本計画においても、目指すべき未来社会の姿として提唱されています。Society 5.0 は、「サイバー空間 (仮想空間) とフィジカル空間 (現実空間) を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」と定義されます。例えば、私たちの生活が高度にネットワークされ、利便性の向上を支える IoT (Internet of Things) はその象徴といえるでしょう。この動向は、様々な課題を抱える僻地医療の課題解決にも可能性を与えるものです。本授業では、以上に加えて、研究倫理やELSI (Ethical, Legal, Social Implications) を含めた幅広い視野から、新しい科学技術と社会の関係について考えていきます。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

Ⅲ-1-3 医学・医療・科学技術と社会の変化に応じてキャリアを継続させる能力

○教科書

特に指定しない。

○参考書

視聴覚資料を含め、授業のなかで多数紹介します。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	授業の進め方、受講の留意事項等	山邊昭則	学生生活支援センター
2	Society 5.0 という潮流	山邊昭則	学生生活支援センター
3	科学と技術の誕生と変遷	山邊昭則	学生生活支援センター
4	IoT (Internet of Things)	山邊昭則	学生生活支援センター
5	科学技術とコミュニケーション	山邊昭則	学生生活支援センター
6	科学とメディア (外来講師と協同)	山邊昭則	学生生活支援センター
7	科学研究の倫理	山邊昭則	学生生活支援センター
8	AIと倫理	山邊昭則	学生生活支援センター
9	Society 5.0 の地域医療	山邊昭則	学生生活支援センター
10	授業全体のまとめ	山邊昭則	学生生活支援センター

○評価の方法

学習プロセスの形成的評価と課題による総括的評価。(期末試験は実施しません。)

○履修上の注意

出席と授業への主体的な姿勢を重視します。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1158-3	国際社会論	山邊昭則	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [木・2] 時限 [L]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

地域社会と国際社会は一見距離があると捉えられる傾向がありますが、新しい国際的概念への理解を深めることで、両者を有機的に関連させる水路が開かれます。例えば、“Think globally, act locally”（地球規模で考え、足元から始めよう）、国連を中心に国際社会が目指す“SDGs: Sustainable Development Goals”（持続可能な開発目標）、医学領域では、“UHC: Universal Health Coverage”（全ての人々が、適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、必要な時に、支払い可能な費用で受けられる状態）などはその象徴といえます。本授業では、新しい国際的概念への理解を深めることにより、日本の地域医療を捉え直す新しい視点を身につけます。そのことにより、自らの世界観を広げ、主体的に地域社会へ貢献していく心を育みます。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅲ-1-3 医学・医療・科学技術と社会の変化に応じてキャリアを継続させる能力

○教科書

特に指定しない。

○参考書

視聴覚資料を含め、授業のなかで多数紹介する。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	授業の進め方、受講の留意事項等	山邊昭則	学生生活支援センター
2	SDGs (Sustainable Development Goals)	山邊昭則	学生生活支援センター
3	国際機構の概要 (United Nations)	山邊昭則	学生生活支援センター
4	環境への活動 (NGO, NPO 等)	山邊昭則	学生生活支援センター
5	人権への活動 (ILO, UNHCR 等)	山邊昭則	学生生活支援センター
6	保健への活動 (WHO, UNFPA 等)	山邊昭則	学生生活支援センター
7	UHC (Universal Health Coverage)	山邊昭則	学生生活支援センター
8	学生時代に国際感覚を磨く (外来講師と協同)	山邊昭則	学生生活支援センター
9	広い世界観で日本の地域医療へ貢献する	山邊昭則	学生生活支援センター
10	授業全体のまとめ	山邊昭則	学生生活支援センター

○評価の方法

学習プロセスの形成的評価と課題による総括的評価。

○履修上の注意

本授業は、国際医療そのものに重点を置くものではなく、国際社会の新しい潮流への理解を深めることで、日本の医療への示唆を得ることを目的とします。（国際医療そのものは他の学習機会の探索を推奨します。）

科目番号	科 目 名	責 任 者	学 年
L1158-5	ソーシャルデザイン論	山 邊 昭 則	1 学 年

○開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [B]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

ソーシャルデザインとは、人間と自然が調和した望ましい社会をいかに創造していくかをテーマとする学術といえます。過疎化、産業の衰退、自然災害等、コミュニティの抱える様々な課題を、領域横断的な創造性によって解決していくアプローチとして、国際的にも注目されています。課題の解決のみならず、新しい価値を創ることも重視されます。本授業では、そのデザインと国内外の様々な事例へ理解を深め、広い視野から、一見関係のない要素の有機的な結びつきを発見し、新しい時代の価値の創造と持続可能なコミュニティの創成について共に考えます。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

Ⅲ-1-3 医学・医療・科学技術と社会の変化に応じてキャリアを継続させる能力

○教科書

特に指定しない。

○参考書

視聴覚資料を含め、授業のなかで多数紹介します。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	授業の進め方、受講の留意事項等	山 邊 昭 則	学 生 生 活 支 援 セ ン タ ー
2	ソーシャルデザインという考え方	山 邊 昭 則	学 生 生 活 支 援 セ ン タ ー
3	SDGs (Sustainable Development Goals)	山 邊 昭 則	学 生 生 活 支 援 セ ン タ ー
4	ガーデンデザインから考える持続可能な社会	山 邊 昭 則	学 生 生 活 支 援 セ ン タ ー
5	政策形成とソーシャルデザイン (行政官と協同)	山 邊 昭 則	学 生 生 活 支 援 セ ン タ ー
6	価値創造と地域創成 (国内外事例)	山 邊 昭 則	学 生 生 活 支 援 セ ン タ ー
7	社会起業とソーシャルデザイン	山 邊 昭 則	学 生 生 活 支 援 セ ン タ ー
8	医療とソーシャルデザイン	山 邊 昭 則	学 生 生 活 支 援 セ ン タ ー
9	新しい時代の社会を考える	山 邊 昭 則	学 生 生 活 支 援 セ ン タ ー
10	授業全体のまとめ	山 邊 昭 則	学 生 生 活 支 援 セ ン タ ー

○評価の方法

学習プロセスの形成的評価と課題による総括的評価。(期末試験は実施しません。)

○履修上の注意

出席と授業への主体的な姿勢を重視します。

〔L12〕 自然系科目

自然系科目一覧

科目番号／授業科目	責任者	学期／曜／時限	授業形態	単 位	定 員	評 価
L1210 医学・医療における数学	奥 田	I・火・2	講 義	1	30	レポート
L1212 基礎数理遺伝学演習	奥 田	II・水・1	演 習	1	30	レポート
L1215 臨床医学と数学	奥 田	A・I・水・5 B・II・水・3	講 義	1	30	レポート
L1216 ゲノム医療がもたらすもの	奥 田	A・I・水・1 B・II・火・1	講 義	1	30	レポート
L1217 パソコン・IT (インターネット)で学ぶゲノム医療	奥 田	A・I・火・3 B・II・火・2	講 義	1	30	レポート
L1220-4 光科学の医学・生命科学への応用	佐藤文	I・水・5	講 義	1	20	出席・小テスト・態度
L1220-5 疾病関連タンパク質概論	山 本	II・火・2	講 義	1	20	出席・レポート・態度
L1233-1 細胞のがん化を制御するシグナル伝達(1)	多 胡	I・木・2	講 義	1	20	出席・レポート
L1233-2 細胞のがん化を制御するシグナル伝達(2)	多 胡	II・木・2	講 義	1	20	出席・課題
L1234-1 「化学」で解き明かす生命現象	太 田	I・火・3	講 義	1	20	出席・態度・レポート
L1240 細胞生物学	高 橋	I・木・2	講 義	1	30	課題・レポート
L1241 発生生物学入門	佐藤滋	II・木・2	講義・実習	1	20	出席・課題
L1242-3 「形」から学ぶヒトの生物学1	菊 地	I・水・1	講 義	1	30	出席・課題
L1242-4 「形」から学ぶヒトの生物学2	菊 地	I・木・3	講 義	1	30	出席・課題
L1243 生物多様性を考える	菊 地	A・II・火・2 B・II・水・3	講 義	1	30	出席・課題
L1245 系統発生学入門	菊 地	II・水・1	講 義	1	30	出席・課題

科目番号／授業科目	責任者	学期／曜／時限	授業形態	単 位	定 員	評 価
L1254-1 体育学演習1	板 井	A・I・火・2 B・I・火・3 C・II・火・1 D・II・火・2	演 習	1	10	レポート・態度 他
L1254-2 体育学演習2	板 井	A・I・木・2 B・I・木・3 C・II・木・1 D・II・木・2	演 習	1	16	レポート・態度 他
L1254-3 体育学演習3	板 井	II・水・1	演 習	1	12	レポート・態度 他
L1254-4 体育学演習4	板 井	II・水・3	演 習	1	12	レポート・態度 他
L1261 医療シミュレーション入門	鈴 木	A・I・火・2 B・I・火・3 C・I・水・5 D・II・火・1 E・II・火・2 F・II・水・3	講 義・ 演 習・ 実 習	1	15	課題 他
L1262-1 医療における「学習」と「教育」	浅 田	A・I・火・2 B・I・火・3	講 義	1	20	出席・課題・レポート
L1262-2 ICT時代の情報活用力	浅 田	A・II・火・1 B・II・火・2	講 義	1	20	出席・課題・レポート
L1263 医療安全のための理論と実践	前 田	II・木・2	講 義・ 演 習・ 実 習	1	20	出席・レポート 他
L1270 医薬品研究の歴史	興 水	A・I・水・1 B・I・水・5	講義・演習	1	30	課題・態度

総合教育科目『数学』科目ガイド

教育目標

- 1) 数学がその技術的側面において医学・医療に、どの様にかかわり応用されているかを学ぶ。
- 2) 数学の思想的な面での医学に対する応用について理解し、数学的思考を導入することで、よりエビデンスに基づいた病態の診断・治療を行えることを学ぶ。
- 3) 大学病院だけでなく、保健所、診療所、一般病院、在宅において、自分の発想（考え）に基づいて、患者、患者の家族、同僚医師、コメディカル、行政職をはじめとする多くの関連職種の人々、地域の住民、さらに地域特性などの種々の要因を考慮しつつ、患者一人一人に対応した医療を構築していくためには、数学的思考過程が必要となることを学ぶ（数学者が自分の発想に基づいて様々な条件を設定し、さらに分析を加え理論体系を創ってゆくプロセスを例にして説明する）。
- 4) 「数式とその背後にある発想」を例にし、医学専門用語の背後にある病態生理を自分なりの言葉で理解し、説明できるようにしておくことの重要性を学ぶ。
- 5) ゲノム解析技術の進展により、従来の臓器縦割りの診療のみならず、ゲノム情報に基づいた臓器横断的な医療の展開が期待されている。ゲノム情報の知見の蓄積により、個々の患者それぞれに適切な医療の推進がすすむと考えられている（ゲノム医療）。さらに、インターネット（IT）、パソコン技術の著しい発展は、大学病院などの大規模施設と地域の診療所との情報量を差のないものにする予想される。このような状況をふまえ、パソコン・ITを用いた遺伝情報（ゲノム情報）の取得方法を学ぶとともにその理論的背景を解説する。さらに、今後、進展するであろうゲノム医療の「光」と「影」について共に議論を深めたいと考えている。
- 6) ベイズの定理の歴史的背景・基礎理論にふれ、臨床医学とベイズの定理のかかわりについて学ぶ。
- 7) 確率・統計学は、臨床医学・医学研究において、重要な位置を占めている。確率・統計学について基本的な概念を説明し、遺伝医学・ゲノム医療領域（数理遺伝学）を中心に確率・統計学がどのように応用されているか講義する。ゲノムの構造解析や高速ゲノム配列探索ツール（BLAST）の数学的基礎理論を学ぶとともに、パソコン・ITで実践（供覧）する。
- 8) 現在の臨床医学にとって必要不可欠であるCT・MRI・超音波診断などの画像診断について、画像を構成するための基礎となるフーリエ解析について説明するとともに、実際の超音波診断装置にふれる機会を提供したいと考えている。

科目の構成

- 1) 医学・医療における数学
- 2) パソコン・IT（インターネット）で学ぶゲノム医療
- 3) 基礎数理遺伝学演習
- 4) ゲノム医療がもたらすもの
- 5) 臨床医学と数学

備考

数学の予備知識の総括は基本的に「医学・医療における数学」でおこなうが他の時間においてもその都度説明する。新しく数式が必要な場合は、その時間内に数学的説明を加える。医学の専門用語についても分かりやすく説明する。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1210	医学・医療における数学	奥田 浩	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [火・2] 時限 [A]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

- 1) 医学・医療と数学とのかかわりを学び医学・医療における「数値」の重要性を理解する。
- 2) 自然数・整数・有理数・無理数・実数・複素数を次元という新たな視点で理解する。
- 3) 複素数の視点に立って、高校までの数学を展望する。
- 4) 連続・収束・微分・積分などが、どのような基礎概念（特に「不等式」の概念に注目して）に基づいて証明され、確立されてきたか歴史的背景をふまえて理解する。
- 5) 臨床医学にとって重要なベイズの定理を学ぶ。
- 6) 数学の発展をもたらした基礎概念が、現在の臨床医学の中にどのように生かされているかを理解する。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-8 科学的探究

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅲ-1-1 総合的・科学的かつ沈着冷静に課題を探求・解決する態度と能力

○教科書

プリント等を準備する。

○参考書

講義内で提示する。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	医学・医療と数学のかかわり/臨床医学・医学研究と「数値」について	奥田 浩	数 学
2	複素数入門：数の概念の拡張と「次元」	奥田 浩	数 学
3	ガウスの定理と3次方程式の解の公式	奥田 浩	数 学
4	「等式」から「不等式」へ	奥田 浩	数 学
5	「不等式」による収束・極限の理解	奥田 浩	数 学
6	実数の性質と連続（中間値の定理の証明）	奥田 浩	数 学
7	微分・積分とはなにか （平均値の定理・テーラーの定理の証明）	奥田 浩	数 学
8	「不等式」によるロピタルの定理の証明	奥田 浩	数 学
9	ベイズの定理と臨床医学	奥田 浩	数 学
10	臨床医学の中に生きている数学的基礎概念	奥田 浩	数 学

○評価の方法

レポート

○履修上の注意

数学・臨床医学などの予備知識は時間内に丁寧に説明します。新しく数式が必要な場合は、その時間内に数学的説明を加えます。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1212	基礎数理遺伝学演習	奥田浩	1学年

○開講時期 [2] 学期 [水・1] 時限 [1]

○授業形式 演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

- 1) (分子) 遺伝学の基礎知識・歴史と遺伝現象の本質を担っている減数分裂について学ぶ。
- 2) 臨床医学に必須である家系図作成の基礎を学習し、実際に家系図を作成する。
- 3) 様々なメンデル遺伝病、臨床医学にとって重要なベイズの定理を学ぶ。
- 4) 保因者について学ぶとともにベイズの定理を用いて保因者のリスクを計算する。
- 5) コンピューター・IT (インターネット) を用いた遺伝子探査と分子系統樹の作成を実際に行う。
- 6) 臨床遺伝学において遺伝カウンセリングをおこなう際の数学的基礎を学ぶ。
- 7) 相談者が遺伝病をきたす病因遺伝子を有していた場合、遺伝カウンセリングにおいて、相談者にどのように説明をしてゆけばよいのか議論・意見交換を行う。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-2 保健・医療・医学の専門職としての役割の自覚と責任感をもつ

○教科書

プリント等を準備する。

○参考書

演習内で提示する。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	数理遺伝学の歴史・遺伝とはなにか	奥田浩	数 学
2	染色体・ゲノム・DNA・RNA・アミノ酸の基礎知識	奥田浩	数 学
3	減数分裂とゲノム多様性	奥田浩	数 学
4	確率・統計の基礎知識	奥田浩	数 学
5	家系図作成とメンデル遺伝病	奥田浩	数 学
6	家系図作成の演習とベイズの定理	奥田浩	数 学
7	保因者のリスク計算1	奥田浩	数 学
8	保因者のリスク計算2	奥田浩	数 学
9	遺伝カウンセリングの実践	奥田浩	数 学
10	パソコンによる遺伝情報の取得と分子系統樹の作成	奥田浩	数 学

○評価の方法

レポート

○履修上の注意

高校の時に生物を履習していない人や数学の不得意な人にも理解できるような内容にする予定です。座学だけでなく、パソコン・インターネット (IT) を用いて視覚化し、学習しやすくする予定です。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1215	臨床医学と数学	奥田浩	1学年

○開講時期 [1] 学期 [水・5] 時限 [D]

[2] 学期 [水・3] 時限 [J]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

- 1) 数学が臨床医学（特に画像診断）に、どのようにかわり応用されているかを学ぶ。
- 2) 病気の診断における、超音波診断・CT・MRIなどの画像診断の数学的原理の理解の重要性を学ぶ。
実際の超音波診断装置を体験する。
- 3) 画像を構築するための数学的基礎となるフーリエ解析について理解する。
- 4) ベイズの定理の歴史的・数学的背景を理解し、臨床医学において重要である病気の診断過程において、ベイズの定理が果たしている役割を学ぶ。
- 5) 臨床医学にとって重要なベイズの定理の応用例として、臨床疫学（感度・特異度・陽性的中率・陰性的中率）・臨床遺伝（遺伝カウンセリング）を題材として解説する。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

IV-1-8 医療科学（医療放射線、理学療法、看護、臨床工学）についての知識

○教科書

プリント等を準備する

○参考書

講義内で提示する

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	臨床医学における画像診断	奥田浩	数 学
2	画像の構築とフーリエ解析1	奥田浩	数 学
3	画像の構築とフーリエ解析2	奥田浩	数 学
4	CT・MRIの数学的基礎理論	奥田浩	数 学
5	超音波診断法の数学的理論 (超音波診断装置の供覧と体験)	奥田浩	数 学
6	確率・統計の基礎	奥田浩	数 学
7	ベイズの定理の歴史的背景と基礎理論	奥田浩	数 学
8	臨床疫学とベイズの定理	奥田浩	数 学
9	臨床遺伝とベイズの定理	奥田浩	数 学
10	臨床診断過程とベイズの定理	奥田浩	数 学

○評価の方法

レポート

○履修上の注意

数学（確率・統計・ベイズの定理）・基礎医学・臨床医学などの予備知識は時間内に丁寧に説明します。
講義中に実際の超音波診断装置を供覧し体験してもらう予定です。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1216	ゲノム医療がもたらすもの	奥田 浩	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [水・1] 時限 [C]

[2] 学期 [火・1] 時限 [G]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

- 1) 遺伝学の歴史・基礎知識を学ぶとともにゲノムの概念について理解する。
- 2) 数理遺伝モデルの構成のために重要である確率・確率変数・確率分布・2項分布について学ぶ。
- 3) 遺伝的変異（多様性）を理解するとともに、その同定法（PCR法・シーケンス法）について学ぶ。
- 4) パソコン・IT（インターネット）を用いた遺伝情報（ゲノム情報）の取得方法を学ぶ。
- 5) ゲノム医療（および癌ゲノム医療）について理解するとともに、ゲノム医療の「光」と「影」について学ぶ。
- 6) 保因者について学ぶとともに、ベイズの定理を用いて保因者のリスク（確率）を算出する。
- 7) ゲノム医療における遺伝カウンセリングの重要性を学ぶ。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-1-1 医の倫理に基づきヒューマニズムに徹して保健・医療・医学の問題に取り組む態度をもつ

○教科書

プリント等を準備する。

○参考書

講義内で提示する。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	ゲノムの基礎知識	奥田 浩	数 学
2	遺伝（減数分裂）の基礎知識	奥田 浩	数 学
3	遺伝的変異（多様性）の同定法（PCR法など）	奥田 浩	数 学
4	数理遺伝モデルと2項分布	奥田 浩	数 学
5	確率とベイズの定理	奥田 浩	数 学
6	パソコン・ITを用いたゲノム情報の取得	奥田 浩	数 学
7	ゲノム医療とは何か	奥田 浩	数 学
8	癌ゲノム医療とは何か	奥田 浩	数 学
9	ゲノム医療の「光」と「影」を議論する	奥田 浩	数 学
10	ゲノム医療と遺伝カウンセリング	奥田 浩	数 学

○評価の方法

レポート

○履修上の注意

次世代シーケンサーなどのゲノム解析技術の進展によりもたらされたゲノム情報（ゲノム情報の多様性）に基づく医療（ゲノム医療）について提示します。高校の時に生物を履習していない人や数学の不得意な人にも理解できるような内容にする予定です。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1217	パソコン・IT（インターネット） で学ぶゲノム医療	奥田 浩	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [B]
[2] 学期 [火・2] 時限 [H]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

- 1) 遺伝学の歴史・基礎知識を学ぶとともにゲノムの概念とゲノム医療について理解する。
- 2) パソコン・IT（インターネット）を用いた遺伝情報（ゲノム情報）の取得方法を学ぶ。
- 3) 世界3大遺伝情報バンク（NCBI（米国）・DDBJ（日本）・EMBL（欧州））にアクセスしゲノム情報等を取得する。
- 4) 世界3大遺伝情報バンクに共通の高速ゲノム配列探査ツール（BLAST）について、理論・実践を学ぶ。
- 5) 地域医療におけるパソコン・IT（インターネット）による情報収集の重要性を学ぶ。
- 6) 進化距離の概念・理論を学び、パソコンにより分子系統樹（ウイルス・細菌・動植物等）を作成する。
- 7) パソコンによるゲノムの構造解析を実践するとともにその理論的背景を学ぶ。
- 8) ゲノム情報解析に必要な数理遺伝学（確率・遺伝統計・2項分布・ポアソン分布・正規分布等）を学ぶ。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-1-1 医の倫理に基づきヒューマニズムに徹して保健・医療・医学の問題に取り組む態度をもつ

○教科書

プリント等を準備する。

○参考書

講義内で提示する。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	ゲノムと遺伝学の基礎知識1	奥田 浩	数 学
2	ゲノムと遺伝学の基礎知識2	奥田 浩	数 学
3	確率と数理遺伝モデル	奥田 浩	数 学
4	パソコン・IT（インターネット）によるゲノム情報の登録と収集	奥田 浩	数 学
5	世界3大遺伝情報バンク（NCBI・DDBJ・EMBL）へのアクセスと情報収集	奥田 浩	数 学
6	高速ゲノム配列探査ツール（BLAST）の理論と実践	奥田 浩	数 学
7	進化距離（遺伝距離）の理論について	奥田 浩	数 学
8	分子系統樹の基礎理論とパソコンによる分子系統樹の作成	奥田 浩	数 学
9	ゲノム構造の数理解析理論とパソコンによるゲノムの構造解析の実践	奥田 浩	数 学
10	地域医療におけるパソコン・ITによる情報収集の重要性	奥田 浩	数 学

○評価の方法

レポート

○履修上の注意

パソコン・IT（インターネット）によるゲノム情報の収集・解析の方法とその重要性について提示します。

高校の時に生物を履習していない人や数学の不得意な人にも理解できるような内容にする予定です。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1220-4	光科学の医学・生命科学への応用	佐藤文菜	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [水・5] 時限 [D]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

医学・生命科学の諸分野には、多数の光科学的現象が関わっており、それに付随した技術が治療や診断、及び研究に利用されている。本講義では、生体の光に対する応答、生体分子と光の相互作用、光学的計測の基礎等を学び、診療と医学研究に関わる光利用の原理を広く理解することを目的とする。ここで光とは、紫外光、可視光、赤外光、X線、 γ 線などである。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-8 科学的探究

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

Ⅲ-1-1 総合的・科学的かつ沈着冷静に課題を探究・解決する態度と能力

○教科書

必要に応じて資料配布

○参考書

講義中に紹介する

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	光科学の基礎	佐藤文菜	生物物理学
2	紫外・可視・赤外光の医学利用	佐藤文菜	生物物理学
3	レーザー光の基礎と医学利用 1	佐藤文菜	生物物理学
4	レーザー光の基礎と医学利用 2	佐藤文菜	生物物理学
5	X線・ γ 線の基礎と医学利用	佐藤文菜	生物物理学
6	放射線の基礎と応用 1	佐藤文菜	生物物理学
7	放射線の基礎と応用 2	佐藤文菜	生物物理学
8	光科学を用いた生命科学研究紹介 1	佐藤文菜	生物物理学
9	光科学を用いた生命科学研究紹介 2	佐藤文菜	生物物理学
10	まとめ	佐藤文菜	生物物理学

○評価の方法

講義後の小問題、出席、受講態度

○履修上の注意

板書も併用するため、ノートかメモを取ってください

科目番号	科目名	責任者	学年
L1220-5	疾病関連タンパク質概論	山本直樹	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [火・2] 時限 [H]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

遺伝子翻訳の産物であるタンパク質は生命活動の根幹を成す物質であり、疾病発症原理を理解するには関連するタンパク質の理解が不可欠です。本講義では、がん、白血病、HIV、アルツハイマー病などの疾患、またCOVID-19に関連したテーマについて、タンパク質の構造および機能異常の観点からやさしく解説します。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

II-1-1 生命現象への基本的な理解

○教科書

必要に応じて資料を配布します。

○参考書

分子細胞生物学 第7版 石浦 章一ら 訳 東京化学同人

ワインバーグ がんの生物学 武藤 誠・青木 正博 訳 南江堂

カラー図解 免疫学の基本がわかる事典 鈴木 隆二 西東社

病気がみえる vol.5 血液 メディックメディア

病気がみえる vol.7 脳 メディックメディア

カラーイラストで学ぶ 集中講義 病理学 清水 道生・内藤 善哉 編集 メジカルビュー社

ハリソン内科学 第5版 福井 次矢・黒川 清 監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	タンパク質と疾病の基本的な話	山本直樹	生物物理学
2	がん発症の分子論 1	山本直樹	生物物理学
3	がん発症の分子論 2	山本直樹	生物物理学
4	遺伝子異常が起こる仕組み 1	山本直樹	生物物理学
5	遺伝子異常が起こる仕組み 2	山本直樹	生物物理学
6	白血病	山本直樹	生物物理学
7	免疫の仕組みと関連疾患 1	山本直樹	生物物理学
8	免疫の仕組みと関連疾患 2	山本直樹	生物物理学
9	アルツハイマー病	山本直樹	生物物理学
10	治療法の現在と未来	山本直樹	生物物理学

○評価の方法

毎講義の最後に理解できたことの簡単なまとめやコメントを書いてもらいますので、それに出席率および受講態度を合わせて総合的に判断します。

○履修上の注意

1学期の復習も兼ねて、生命現象のセントラルドグマなど基本的な部分から解説する予定です。疾病とタンパク質の関連に興味があれば受講を検討してみてください。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1233-1	細胞のがん化を制御する シグナル伝達 (1)	多胡憲治	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [E]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

細胞増殖の制御が破綻した疾患の一つである「がん」について細胞内シグナル伝達系からの理解を目指す。高校で生物を履修していなかった学生にも理解できるように基本から解説する。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

II-1-1 生命現象への基本的な理解

○教科書

適宜資料を配布する。

○参考書

がん遺伝子の発見 がん解明の同時代史 黒木登志夫著 (中央公論社)

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	細胞増殖のしくみ	太 田 聡	構 造 生 化 学
2	遺伝情報と遺伝子	太 田 聡	構 造 生 化 学
3	遺伝情報の異常と疾患	太 田 聡	構 造 生 化 学
4	細胞内シグナル伝達系の基本 (1) 受容体と細胞内シグナル	多 胡 憲 治	構 造 生 化 学
5	細胞内シグナル伝達系の基本 (2) 核内におけるシグナル伝達系	多 胡 憲 治	構 造 生 化 学
6	発がんのメカニズム (1) Rasプロトがん遺伝子産物の機能と発がん	多 胡 憲 治	構 造 生 化 学
7	発がんのメカニズム (2) 核内蛋白質による発がん (Myc遺伝子を例として)	多 胡 憲 治	構 造 生 化 学
8	がん抑制遺伝子 (1)	多 胡 憲 治	構 造 生 化 学
9	がん抑制遺伝子 (2)	多 胡 憲 治	構 造 生 化 学
10	がん抑制シグナルと発がんシグナルのクロストーク	多 胡 憲 治	構 造 生 化 学

○評価の方法

出席、レポート

○履修上の注意

特になし

科目番号	科目名	責任者	学年
L1233-2	細胞のがん化を制御するシグナル伝達 (2)	多胡憲治	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [木・2] 時限 [L]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

1 学期に行われる「細胞のがん化を制御するシグナル伝達 (1)」の続編的位置づけの講義であるが、受講していなかった学生にも理解できるように進める。細胞内情報伝達系の各ステップについて、学生が自らの手で調べて学ぶ作業を通じて、発がんを引き起こすメカニズムについて理解を深めることを目指す。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

II-1-1 生命現象への基本的な理解

○教科書

適宜資料を配布する。

○参考書

がん遺伝子の発見 がん解明の同時代史 黒木登志夫著 (中央公論社)

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	発がんシグナルの全体像	多胡憲治	構造生化学
2	プロトがん遺伝子産物と発がんシグナル	多胡憲治	構造生化学
3	プロトがん遺伝子産物を標的とした抗がん剤とその作用	多胡憲治	構造生化学
4	抗がん剤の作用のしくみ	多胡憲治	構造生化学
5	細胞周期とチェックポイント	太田 聡	構造生化学
6	細胞周期とチェックポイントを標的とした抗がん剤とその作用	太田 聡	構造生化学
7	発がんシグナルを担うタンパク質の量的制御のしくみ	太田 聡	構造生化学
8	発がんシグナルと代謝 (1)	多胡憲治	構造生化学
9	発がんシグナルと代謝 (2)	多胡憲治	構造生化学
10	発がんシグナルと細胞、個体の老化	多胡憲治	構造生化学

○評価の方法

授業への出席と課題への取り組みを総合的に評価する。

○履修上の注意

特になし

科目番号	科目名	責任者	学年
L1234-1	「化学」で解き明かす生命現象	太田 聡	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [B]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

生命の活動単位である細胞はたくさんの分子（物質）の集合体です。化学は物質の構造と反応を扱う学問です。したがって、細胞を化学の視点から紐解くことは細胞の理解に不可欠です。この講義では、生体分子と生体反応に化学的なアプローチでせまり細胞を学びます。医薬品と生体分子の相互作用についても触れます。また、分子の形を立体的に認識する能力を養うため、分子模型を用いた学習を取り入れます。他の講義（総合教育科目の生命科学など）で学ぶ分子生物学・細胞生物学の知識と結び付けることで、多面的に生命現象を理解して欲しいと思います。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

II-1-1 生命現象への基本的な理解

○教科書

適宜プリントを配布する

○参考書

必要に応じて講義の中で紹介する

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	細胞は化学工場～細胞を構成する生体分子	太田 聡	生 化 学
2	生体分子をつくる結合～電子軌道と共有結合	太田 聡	生 化 学
3	炭素骨格をもつ生体分子間の相互作用が細胞をつくる ～混成軌道と分子間相互作用	太田 聡	生 化 学
4	なぜ化学反応はこっちにすすむの？ ～エンタルピーとエントロピー	太田 聡	生 化 学
5	なぜ化学反応はあっちにすすむの？ ～ギブスの自由エネルギーとATPの獲得	太田 聡	生 化 学
6	なぜ生命には金属が必要な？ ～生体金属の種類と役割	太田 聡	生 化 学
7	生体分子の形を決めるもの ～不斉炭素と異性体～分子模型で学ぼう	多胡 憲 治	生 化 学
8	生体分子の形を決めるもの ～立体配座	多胡 憲 治	生 化 学
9	分子の構造と生理機能 ～立体異性体と医薬品	多胡 憲 治	生 化 学
10	医薬品の構造はどんな特徴があるの？ ～医薬品と生体分子の相互作用	太田 聡	生 化 学

○評価の方法

出席、受講態度、およびレポート

○履修上の注意

特になし

科目番号	科 目 名	責 任 者	学 年
L 1 2 4 0	細胞生物学	高 橋 将 文	1 学 年

○開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [E]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

細胞生物学は、すべての生命現象の基礎となる学問領域です。医学や生物学の分野では、日々新しい現象が発見されています。しかしながら、細胞の構造や機能、代謝、さらに細胞自身の振る舞いの理解なしに、個体の発生や臓器の形成機構、さらには様々な病態の解明はできないでしょう。本講義では、細胞の構造、動態、代謝、および機能について扱い、組織学、生理学、生化学等の基盤となる細胞生物学の基本概念を学びます。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

II-1-1 生命現象への基本的な理解

○教科書

坂井建雄/石崎泰樹 (編)

「人体の細胞生物学」(日本医事新報社)

授業では教科書の図を参照します。履修する学生は教科書を事前に購入してください。

○参考書

中村桂子/松原謙一 (監訳)

「Essential細胞生物学」原著第4版 (南江堂)

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	細胞とは?	高 橋 将 文	循環病態・代謝学
2	細胞膜の機能	杉 本 大 樹	循環病態・代謝学
3	遺伝情報の発現	杉 本 大 樹	循環病態・代謝学
4	細胞骨格と細胞分裂	高 橋 将 文	循環病態・代謝学
5	細胞接着と細胞外基質	高 橋 将 文	循環病態・代謝学
6	細胞内の物質輸送	高 橋 将 文	循環病態・代謝学
7	細胞増殖、老化、死	高 橋 将 文	循環病態・代謝学
8	細胞間・細胞内の情報伝達	砂 河 孝 行	循環病態・代謝学
9	細胞内代謝と機能連関	武 田 憲 彦	循環病態・代謝学
10	細胞分化	高 橋 将 文	循環病態・代謝学

○評価の方法

授業毎の課題、レポート

○履修上の注意

事前に教科書の対応箇所を読んで、授業に参加すること。質問等は随時メール (高橋 将文 mtaka@jichi.ac.jp) でも可能です。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1241	発生生物学入門	佐藤 滋	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [木・2] 時限 [L]

○授業形式 講義・実習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

1つの受精卵から様々な細胞、器官、形が生み出される現象が「発生」です。発生は古くから人々を魅了し、多くの研究者がその解明に挑戦してきました。現代の発生生物学は、細胞生物学、分子生物学、ゲノム科学、進化生物学を取り込んで発展を続けています。本科目は、「ヒトの発生=わたしたち自身のはじまり」の本質や面白さを理解することを目指します。①発生の仕組みを解説した科学読み物を教科書として使用、②生きた胚や組織の顕微鏡による観察、③第一線で活躍する外来講師による医学・生命科学研究について直接話を聞く機会、が特徴です。先天異常はもとより、癌や老化を理解し、幹細胞や再生医療といった新しい応用的な領域を学ぶために、また、必修科目「発生学」の修得にも有用です。人体のプロを目指す医学部生にとって有用な学びの場を提供します。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

II-1-1 生命現象への基本的な理解

○教科書

ジェイミー・A・ディヴィス著、橘明美訳「人体はこうしてつくられる」(紀伊國屋書店)

○参考書

阿形清和・高橋淑子監訳「ギルバート発生生物学」(MEDSci)

安田峯男・山田重人訳「ラングマン人体発生学 第11版」(MEDSci)

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	現代の発生生物学	佐藤 滋	循環病態・代謝学
2	初期発生とシグナル伝達	佐藤 滋	循環病態・代謝学
3	器官形成とニワトリ胚の観察	佐藤 滋	循環病態・代謝学
4	神経系の発生	高橋 将文	循環病態・代謝学
5	体節形成とエネルギー代謝	荻沼 政之	外来講師
6	神経堤の発生	高橋 将文	循環病態・代謝学
7	四肢の発生	佐藤 滋	循環病態・代謝学
8	生殖器系の発生	佐藤 滋	循環病態・代謝学
9	幹細胞からの臓器作製	正木 英樹	外来講師
10	大きさとバランスの制御	佐藤 滋	循環病態・代謝学

○評価の方法

出席、授業毎に配布する簡易な課題シートによる。

○履修上の注意

事前に教科書を読んで、授業に参加すること。履修や学習内容に関する質問はメール(佐藤 ssato@jichi.ac.jp)でも受け付けます。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1242-3	「形」から学ぶヒトの生物学1	菊地元史	1学年

○開講時期 [1] 学期 [水・1] 時限 [C]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

自分自身の体の中にある臓器の「形」や大きさをどの程度イメージできるだろうか。生物のもつ「形」を観察し、また、「形」から機能を考える科学的手法を形態学という。生物の「形」は、その一つひとつが意味をもっている。ここでは、ヒトの体の外と中とを俯瞰し、人体の成り立ち（すなわち構造と機能）をイメージできるようになることを目標とする。あまり専門的な用語等にはこだわらず、医学の入り口に立った皆さんに相応しい内容としたい。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

II-1-1 生命現象への基本的な理解

○教科書

プリントを配布する。

○参考書

授業の中で紹介する。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	人体のあらまし	菊地元史	自然史学
2	からだをつくる細胞・組織	菊地元史	自然史学
3	栄養の摂取 I 消化管	菊地元史	自然史学
4	〃 II 肝胆膵	菊地元史	自然史学
5	呼吸	菊地元史	自然史学
6	体液と循環 I 循環器	菊地元史	自然史学
7	〃 II 血液	菊地元史	自然史学
8	体液の調節と排泄 I 腎臓・排尿路	菊地元史	自然史学
9	〃 II 体液の調節	菊地元史	自然史学
10	まとめ	菊地元史	自然史学

○評価の方法

出席および授業時間内での課題

○履修上の注意

抽選となった場合、「形」から学ぶヒトの生物学2（1学期 [木・3]）と併せて希望する者を優先する。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1242-4	「形」から学ぶヒトの生物学2	菊地元史	1学年

○開講時期 [1] 学期 [木・3] 時限 [F]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

自分自身の体の中にある臓器の「形」や大きさをどの程度イメージできるだろうか。生物のもつ「形」を観察し、また、「形」から機能を考える科学的手法を形態学という。生物の「形」は、その一つひとつが意味をもっている。ここでは、ヒトの体の外と中とを俯瞰し、人体の成り立ち（すなわち構造と機能）をイメージできるようになることを目標とする。あまり専門的な用語等にはこだわらず、医学の入り口に立った皆さんに相応しい内容としたい。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

II-1-1 生命現象への基本的な理解

○教科書

プリントを配布する。

○参考書

授業の中で紹介する。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	からだの支持と運動 I 骨格	菊地元史	自然史学
2	からだの支持と運動 I 筋	菊地元史	自然史学
3	内部環境の調節 内分泌・自律神経	菊地元史	自然史学
4	情報の受容と処理 I 神経の概論・中枢神経	菊地元史	自然史学
5	〃 II 感覚器	菊地元史	自然史学
6	からだを守るしくみ I 皮膚・体温調節	菊地元史	自然史学
7	〃 II 免疫	菊地元史	自然史学
8	生殖、発生、老化 I 生殖器	菊地元史	自然史学
9	〃 II 発生・成長・老化	菊地元史	自然史学
10	まとめ	菊地元史	自然史学

○評価の方法

出席および授業時間内での課題

○履修上の注意

抽選となった場合、「形」から学ぶヒトの生物学1（1学期 [水・1]）と併せて希望する者を優先する。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1243	生物多様性を考える	菊地元史	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [火・2] 時限 [H]

[2] 学期 [水・3] 時限 [J]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

40億年とも言われる長い歴史の中で、生物は変異を重ねつつ命を継ぐことによって次第にその多様性を増してきた。その結果として、今の豊かな生物相は存在する。別の見方をすれば、私たちヒトを含め現在みられる生命の一つひとつは、原始の生命から途切れることなく受け継がれてきたものである。一方で、今、種の絶滅の速度が分化の速度を遥かに凌ぐようになってしまった現実も見つめなければならない。この授業では、生物の多様性がどのようにしてできてきたのか、現在どのように成り立っているのかを科学的に提示する。本講義の修了時には、生物多様性がどうして大切なのかという問いに各自の考えをもってほしい。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

II-1-1 生命現象への基本的な理解

○教科書

プリントを配布する。

○参考書

授業の中で紹介する。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	序 論	菊 地 元 史	自 然 史 学
2	いろいろな生物 その1	菊 地 元 史	自 然 史 学
3	いろいろな生物 その2	菊 地 元 史	自 然 史 学
4	いろいろな生物 その3	菊 地 元 史	自 然 史 学
5	多様性を整理する方法	菊 地 元 史	自 然 史 学
6	生命の歴史と多様性	菊 地 元 史	自 然 史 学
7	多様性が生まれる原理	菊 地 元 史	自 然 史 学
8	生物間の相互作用	菊 地 元 史	自 然 史 学
9	多様性を守る	菊 地 元 史	自 然 史 学
10	まとめ	菊 地 元 史	自 然 史 学

○評価の方法

出席および課題

○履修上の注意

特になし

科目番号	科目名	責任者	学年
L1245	系統発生学入門	菊地元史	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [水・1] 時限 [1]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

我々の身体は、原始の生命に始まり、40億年とされる長い歴史をかけて少しずつ変化を重ねて現在の形に至った。その過程（系統発生）に目を向けることによって、「ヒト」についての理解もまた驚くほど深まるだろう。例えば、どうして呼吸器と消化器は、咽頭で交差する「不都合な」構造になっているのだろうか。また、どうして聴覚と平衡覚を内耳が司るのだろうか。本科目では、これらの疑問に答える系統発生学という概念を身につけることを目標とする。学んだことを基として、病気が何故あるのかという問題を考えてみて欲しい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

II-1-1 生命現象への基本的な理解

○教科書

プリントを配布する。

○参考書

授業の中で紹介する。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	生命とは何だろう	菊地元史	自然史学
2	ヒトへの40億年の道のり 1	菊地元史	自然史学
3	ヒトへの40億年の道のり 2	菊地元史	自然史学
4	器官系の系統発生 1（感覚器）	菊地元史	自然史学
5	器官系の系統発生 2（呼吸器）	菊地元史	自然史学
6	器官系の系統発生 3（循環器・泌尿器）	菊地元史	自然史学
7	器官系の系統発生 4（消化器）	菊地元史	自然史学
8	器官系の系統発生 5（神経・運動器）	菊地元史	自然史学
9	器官系の系統発生 6（性とは）	菊地元史	自然史学
10	まとめ	菊地元史	自然史学

○評価の方法

出席および課題

○履修上の注意

上記の授業項目は受講者の興味に合わせて適宜変更する。受講に条件はないが、「L1243 生物多様性を考える」とは重複する部分が多い。併せて選択する場合、この点を承知しておくこと。また、受講希望者が定員を超える場合、「L1243 生物多様性を考える」を受講しない者を優先する。

総合教育科目『保健体育』科目ガイド

○教育目標

運動は「からだ」をより良く理解するために大切な身体の活動です。医師になろうとしている皆さんには、まず「からだ」に興味を持ち、「からだの声」に耳を傾ける力を養う必要があると考えます。

「からだの声」は「いのちの声」に直結していると考えます。

また気分転換やストレスの発散、学友と交流を深める場として、さらにはより良い人格形成を促す場としても体育は格好の科目であるといえましょう。

単に丈夫で体力があるとか、運動やスポーツが得意であれば「それでよし」ということにはなりません。部活で好成績を収めたばかりに天狗になり了見が狭く（人を馬鹿にするように）なってはいませんか。逆にスポーツが苦手なばかりに、運動から得られる喜びに気づいていないことはありませんか。とくに自治医大生にとっての体育では、身体の構造や動きを理解し動作の特性を冷静に分析できる能力を養っていく必要があると考えます。才能やカンだけに頼らない運動能力を身につけたいということです。

一方、複雑な思考やストレスを忘れてスカッとすることも運動の効用です。運動・スポーツが「できる」という主観と、「何故できるのか」「どうしたらできるようになるのか」といった客観の間をバランスよく行き来できる思考に加え、QOL向上のために運動を利用していく能力が必要であると思うのです。

そのためには「からだの声」に耳を傾け「からだで考える」ことができる力を身につけることが大切になります。そのうえで、スポーツがより上手くできるようになったり、運動することの喜びを感じることが出来るようになってほしいと願っています。

○科目の解説

分科名	開講時期	主な内容
体育学演習1	1・2学期：火曜日	「トレーニング」を教材とする。自己流のトレーニングは効果が低いか危険を伴うことがある。正しい体のさばき方を身につけることが大切である。女子クラスと男子クラスに分けて実施する。
体育学演習2	1・2学期：木曜日	「硬式テニス」を教材とする。テニスは生涯体育として相応しい種目の一つである。ゲームを楽しむことのできる基礎を身につける。
体育学演習3	2学期：水曜日	「ゴルフ」を教材とする。ゴルフは生涯体育として相応しい種目の一つである。スウィングの基礎を身につける。
体育学演習4	2学期：水曜日	様々なスポーツを実施する中で運動に対する認識を深める。「ゆるいスポーツ」も大切な運動である。また、授業でなければやってみることのないスポーツにも挑戦する。

【1学期】

時 限	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日
1 時限			
2 時限	L1254-1 A 【体育学演習1】男子クラス	L2301A 【総合体育演習A】(必修)	L1254-2 A 【体育学演習2】
3 時限	L1254-1 B 【体育学演習1】女子クラス	L2301B 【総合体育演習B】(必修)	L1254-2 B 【体育学演習2】
4 時限			
5 時限			

【2学期】

時 限	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日
1 時限	L1254-1 C 【体育学演習1】男子クラス	L1254-3 【体育学演習3】	L1254-2 C 【体育学演習2】
2 時限	L1254-1 D 【体育学演習1】女子クラス		L1254-2 D 【体育学演習2】
3 時限		L1254-4 【体育学演習4】	
4 時限			
5 時限			

科目番号	科目名	責任者	学年
L1254-1	体育学演習1	板井美浩	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [火・2] 時限 [A] [1] 学期 [火・3] 時限 [B]
[2] 学期 [火・1] 時限 [G] [2] 学期 [火・2] 時限 [H]

○授業形式 演習

○履修定員 [10] 名

○ねらい

「レジスタンス・トレーニング」を教材として身体に関する考察を深める。バーベルやダンベルといったフリーウェイトや種々のトレーニング機器、あるいは器具を用いない自重トレーニングの正しい方法を理解し、また身体の構造を意識して安全にトレーニングを行っていくことのできる基礎的能力を身につける。経験者においては、行ってきたトレーニングの正誤およびトレーニングの意義について認識を新たにし、発展的なトレーニングを実施することのできる能力を養う。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

II-1-4 人間に作用する様々な因子と人体の反応についての知識

○教科書

特に指定しない。資料プリントを配布する。

○参考書

特に指定しない。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	導入 施設・器具使用上の注意	板井美浩 奥山慎也	保来 体育 外 講 師
2	自重・バランス器具と身体意識	板井美浩 奥山慎也	保来 体育 外 講 師
3	トレーニングマシンと身体意識	板井美浩 奥山慎也	保来 体育 外 講 師
4	フリーウェイトと身体意識	板井美浩 奥山慎也	保来 体育 外 講 師
5	統合的身体操法のトレーニング (パワークリーン) その1	板井美浩 奥山慎也	保来 体育 外 講 師
6	その2	板井美浩 奥山慎也	保来 体育 外 講 師
7	その3	板井美浩 奥山慎也	保来 体育 外 講 師
8	その4	板井美浩 奥山慎也	保来 体育 外 講 師
9	その5	板井美浩 奥山慎也	保来 体育 外 講 師
10	まとめ パワークリーン最大挙上重量測定 レポート作成	板井美浩 奥山慎也	保来 体育 外 講 師

○評価の方法

「パワークリーン」動作の習熟度およびレポート。態度評価を加味する。

○履修上の注意

●男子クラス (1 学期・火・2 時限、2 学期・火・1 時限) と女子クラス (1 学期・火・3 時限、2 学期・火・2 時限) に分けて実施する。

●履修希望者が2名に満たないときは開講を見合わせる場合がある。

●ATLAS ARENA (トレーニングルーム) で実施する。屋内運動靴、運動着は各自用意すること。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1254-2	体育学演習2	板井美浩	1学年

- 開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [E] [1] 学期 [木・3] 時限 [F]
 [2] 学期 [木・1] 時限 [K] [2] 学期 [木・2] 時限 [L]

○授業形式 演習

○履修定員 [16] 名

○ねらい

「硬式テニス」を教材として身体に関する考察を深める。テニスはラケット（道具）を介在してボールを打つという身体操法が必要である。初心者は予想と乖離したボールの挙動に驚き、さらにテニスは対人スポーツであることから相手の打ち返したボールに対応することができず、しばしば向上の意欲を失ってしまうことがある。この授業では、ラケットやボール扱いについて挫折することなく乗り越えられる課題から始めてテニスに身体を慣らし、ゲームをすることの楽しみを味わえるようになってほしい。一方、熟練の経験者においては、自身の身体感覚を相手に伝える訓練と、身体に染みついた動きの癖と向き合い、新たな身体のさばき方を模索してほしい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

II-1-4 人間に作用する様々な因子と人体の反応についての知識

○教科書

特に指定しない。

○参考書

特に指定しない。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	導入 ラケット・ボールの特性	板井美浩	保健体育
2	ボール慣れ ミニゲーム	板井美浩	保健体育
3	ストローク ミニゲーム	板井美浩	保健体育
4	ショートラリー ポイントの教え方	板井美浩	保健体育
5	サーブ 2バウンドゲームその1	板井美浩	保健体育
6	ロングラリー その2	板井美浩	保健体育
7	球出し ストローク その3	板井美浩	保健体育
8	球出し ボレー その4	板井美浩	保健体育
9	サーブ ゲーム	板井美浩	保健体育
10	まとめ ゲーム レポート作成	板井美浩	保健体育

○評価の方法

身体のさばき方に対する理解と習熟度およびレポート。態度評価を加味する。

○履修上の注意

●テニスコート（オムニコート）あるいはATLAS ARENA（メインアリーナ）で実施する。

●屋外・屋内用運動靴、運動着は各自用意すること。その他、授業で使用する用具は概ね大学で用意するが、私物のラケットを使用してもよい。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1254-3	体育学演習3	板井美浩	1学年

○開講時期 [2] 学期 [水・1] 時限 [1]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

「ゴルフ」を教材として身体に関する考察を深める。ゴルフは三世代にわたる年齢層でも対等に楽しむことができる稀なスポーツである。この授業を通して生涯体育を実践するための基礎的手段を身につけてほしい。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

II-1-4 人間に作用する様々な因子と人体の反応についての知識

○教科書

特に指定しない。

○参考書

特に指定しない。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	導入 ルール・マナー 用具の説明	板井美浩	保健体育
2	ミドルアイアン ハーフスイング	板井美浩	保健体育
3	ミドルアイアン フルスイング	板井美浩	保健体育
4	ミドルアイアン フルスイング	板井美浩	保健体育
5	ドライバー ハーフ～フルスイング	板井美浩	保健体育
6	ショートアイアン ハーフ～フルスイング	板井美浩	保健体育
7	アプローチ 転がす	板井美浩	保健体育
8	アプローチ 上げてとめる	板井美浩	保健体育
9	パター	板井美浩	保健体育
10	まとめ ショートゲーム レポート作成	板井美浩	保健体育

○評価の方法

身体のさばき方に対する理解と習熟度およびレポート。態度評価を加味する。

○履修上の注意

●ATLAS ARENA (メインアリーナ) およびグラウンドで実施する。

●屋内・屋外用運動靴、運動着は各自用意すること。その他、授業で使用する用具は概ね大学で用意するが、私物のクラブを使用してもよい。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1254-4	体育学演習4	板井美浩	1学年

○開講時期 [2] 学期 [水・3] 時限 [J]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

様々なスポーツ種目を体験することで身体に関する考察を深める。授業で実践しなければ一生やることのないかも知れないスポーツを体験してみる。激しく汗をかくことのない(ゆるい)スポーツの奥深さに気づく。この授業を通して、将来、健康教室等の指導をすることになったとき思い出すことができるようなヒントを見出してほしい。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-8 科学的探究

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

Ⅲ-1-1 総合的・科学的かつ沈着冷静に課題を探究・解決する態度と能力

○教科書

特に指定しない。

○参考書

特に指定しない。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	導入 キッズテニス	板井美浩	保健体育
2	水泳・着衣水泳	板井美浩	保健体育
3	サイクリング (下野薬師寺跡周辺)	板井美浩	保健体育
4	サイクリング (下野国分寺跡周辺)	板井美浩	保健体育
5	グラウンドゴルフ	板井美浩	保健体育
6	グラウンドゴルフ	板井美浩	保健体育
7	三角ベースボール	板井美浩	保健体育
8	三角ベースボール	板井美浩	保健体育
9	陸上競技 (クラウチングスタート)	板井美浩	保健体育
10	陸上競技 (棒高跳)	板井美浩	保健体育

○評価の方法

様々なスポーツに対する受講態度と理解度およびレポート。態度評価を加味する。

○履修上の注意

●屋外・屋内用運動靴、運動着は各自用意すること。その他、授業で使用する用具は概ね大学で用意するが、自転車は私物を使用してもよい。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1261	医療シミュレーション入門	鈴木義彦	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [火・2] 時限 [A] [1] 学期 [火・3] 時限 [B]
 [1] 学期 [水・5] 時限 [D] [2] 学期 [火・1] 時限 [G]
 [2] 学期 [火・2] 時限 [H] [2] 学期 [水・3] 時限 [J]

○授業形式 講義・演習・実習

○履修定員 [15] 名

○ねらい

シミュレーションによる医療者教育は安全にかつ医療現場に近い環境で主義の練習を繰り返してできるという利点がある。

COVID-19感染症の蔓延により、患者との接触が制限される中で、マネキン等を利用したシミュレーション教育の重要性は今後ますます高まるものと思われる。

本講義では、シミュレーション教育の手法に関する体系的な知識やシミュレータの使い方を動画教材等で事前学習したのち、実際にシミュレータを利用して実践的な演習を行う予定である。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

IV-1-8 医療科学 (医療放射線、理学療法、看護、臨床工学) についての知識

○教科書

必要に応じて資料を配付

○参考書

シミュレーション医学教育入門 篠原出版新社 日本医学教育学会教材開発・SP小委員会

学習設計マニュアル 北大路書房 「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン 鈴木克明 著、編集

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	ガイダンス：シミュレーション医学教育の必要性・シミュレーションセンター見学	鈴木義彦	メデイカルシミュレーションセンター
2	シミュレータ実践デモンストレーション	鈴木義彦	メデイカルシミュレーションセンター
3	シミュレータ体験1	鈴木義彦	メデイカルシミュレーションセンター
4	シミュレータ体験2	鈴木義彦	メデイカルシミュレーションセンター
5	シミュレータ実践1-1	鈴木義彦	メデイカルシミュレーションセンター
6	シミュレータ実践1-2	鈴木義彦	メデイカルシミュレーションセンター
7	シミュレータ実践2-1	鈴木義彦	メデイカルシミュレーションセンター
8	シミュレータ実践2-2	鈴木義彦	メデイカルシミュレーションセンター
9	シミュレータ実践3-1	鈴木義彦	メデイカルシミュレーションセンター
10	シミュレータ実践3-2	鈴木義彦	メデイカルシミュレーションセンター

○評価の方法

・各授業中に提示する課題 (10点 x 6回)

・最終課題 (10点 x 1回)

・スキルチェック (10点 x 3回)

○履修上の注意

特になし

科目番号	科目名	責任者	学年
L1262-1	医療における「学習」と「教育」	浅田 義和	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [火・2] 時限 [A]

[1] 学期 [火・3] 時限 [B]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

医師という立場は生涯、新しい知識やスキルを学び続ける「学習者」であり、同時に学生や後輩、さらには患者や市民への指導を行う「教育者」でもあります。一方、この「学習」や「教育」そのものについて学ぶ機会はほとんどありません。本科目では、入学直後の時期に「学習」と「教育」を再考し、生涯を通じて活用できる能力の習得を目指します。

70分の講義時間は、教員が一方的に話すだけでなく、ディスカッションなどを含めた双方向での学びの場とします。コロナ禍での遠隔教育（メディア授業）を受けるにあたっての心構えなども含め、今後の主体的な学びを進めていく礎としてもらえれば幸いです。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅲ-1-3 医学・医療・科学技術と社会の変化に応じてキャリアを継続させる能力

○教科書

指定しない。必要に応じて資料を配付する。

○参考書

鈴木克明・美馬のゆり（編著）. 学習設計マニュアル:「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン. 北大路書房. 2018

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	ガイダンス：学習と教育をとらえ直す	浅田 義和	医学教育センター
2	ARCSモデル：学習意欲を高める方略	浅田 義和	医学教育センター
3	学習目標：学びのゴール設定	浅田 義和	医学教育センター
4	評価方法：学習過程と達成度の評価	浅田 義和	医学教育センター
5	協同学習：学習者同士での協力	浅田 義和	医学教育センター
6	EdTech：ICTを活用した教育事例	浅田 義和	医学教育センター
7	学習分析：教育データの利活用	浅田 義和	医学教育センター
8	医療者教育と科学的な教え方・学び方	浅田 義和	医学教育センター
9	教育全体の評価と改善	浅田 義和	医学教育センター
10	これから求められる学びの主体性	浅田 義和	医学教育センター

○評価の方法

出席＋省察（20点分）、課題（40点分）、最終レポート（40点分）：以下の観点で評価します。

【目標行動1】学習や教育に関する基本概念について、用語の意味や具体例を回答できる

【目標行動2】医療教育における学習・教育の知見の活用を、具体例とともに説明できる

【目標行動3】本科目での学びを実際に活用していくための計画をたてることのできる

○履修上の注意

科目内容に関する詳細相談などは yasada@jichi.ac.jp までメールにて問い合わせること。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1262-2	ICT時代の情報活用力	浅田 義和	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [火・1] 時限 [G]

[2] 学期 [火・2] 時限 [H]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

ICT (Information and Communication Technology) 時代や人工知能時代といった表現に代表されるように、様々な技術の応用・活用がなされています。医学の専門家（医師）を目指すみなさんにとっても、利用者としてこのような技術に触れる機会が増えてきます。

この科目では、事例を通じて「これからの時代、医療者に求められる情報リテラシー、情報活用力とは何だろうか」を考えていきます。個別のツールの使い方にとどまらず、ICTや人工知能、さらには今後誕生してくる様々な技術を正しく活用していくための基盤となる考え方を身につけていってください。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

Ⅲ-1-3 医学・医療・科学技術と社会の変化に応じてキャリアを継続させる能力

○教科書

指定しない。必要に応じて資料を配付する。

○参考書

保本正芳. はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス. noa出版 (2022)

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	ガイダンス：情報リテラシー再考	浅田 義和	医学教育センター
2	情報の正しさと受発信	浅田 義和	医学教育センター
3	データマイニングとテキストマイニング	浅田 義和	医学教育センター
4	データマイニングの実践	浅田 義和	医学教育センター
5	テキストマイニングの実践	浅田 義和	医学教育センター
6	プログラミングとアルゴリズム	浅田 義和	医学教育センター
7	プログラミング実践	浅田 義和	医学教育センター
8	データ活用に関連する情報倫理	浅田 義和	医学教育センター
9	医療におけるICTリテラシー	浅田 義和	医学教育センター
10	全体のまとめ	浅田 義和	医学教育センター

○評価の方法

出席+省察 (20点分)、課題 (40点分)、最終レポート (40点分)：以下の観点で評価します。

【目標行動1】 ICTや人工知能といった情報技術がどのように活用されているか説明できる

【目標行動2】 医療分野（診療、教育、研究問わず）におけるICT活用方法を検討できる

【目標行動3】 これから求められる情報リテラシーについて、意見を述べる事ができる

○履修上の注意

特になし。科目内容に関する詳細相談などは yasada@jichi.ac.jp までメールすること。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1263	医療安全のための理論と実践	前田佳孝	1学年

○開講時期 [2] 学期 [木・2] 時限 [L]

○授業形式 講義・演習・実習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

医学知識が豊富で高い技術を持つ優れた医師でも、人間である以上、ヒューマンエラーを起こす。エラーは事故に繋がり、健康になるために来院した患者を傷付け、命を奪う可能性すらある。エラーは「気を付けよう」といった精神論、場当たりの対策では無くせず、その発生メカニズムや人間特性などを理解した上で、エラーを減らす対策、エラーを事故に繋げない対策を講じる必要がある。本科目の目標は、ヒューマンエラー防止のための基礎的な理論・方法を学び、それを日常生活を含む、様々な場で習慣的に実践できる能力を身に付けることである。これらはできる限り早期から習慣付けることが重要であり、本科目が長い医師人生において医療安全を実践するための素地となることを期待する。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-8 科学的探究

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

Ⅲ-1-4 医療の改善のために評価・検証し創生する能力

○教科書

特になし

○参考書

安全人間工学の理論と技術 ヒューマンエラーの防止と現場力の向上 丸善出版 小松原明哲

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	ガイダンス：ヒューマンエラーの発生メカニズム	前田佳孝	メデイカルシミュレーションセンター
2	人間特性とヒューマンエラー：人間の限界を体験する	前田佳孝	メデイカルシミュレーションセンター
3	現場改善：大学内の巡視演習	前田佳孝	メデイカルシミュレーションセンター
4	医療機器の使いやすさ：評価練習	前田佳孝	メデイカルシミュレーションセンター
5	守りやすいルール・マニュアル：作成練習	前田佳孝	メデイカルシミュレーションセンター
6	コミュニケーション：指示の出し方／受け方演習	前田佳孝	メデイカルシミュレーションセンター
7	チームワーク：チームでエラーをブロックする	前田佳孝	メデイカルシミュレーションセンター
8	事故調査・分析Ⅰ：VTAの練習	前田佳孝	メデイカルシミュレーションセンター
9	事故調査・分析Ⅱ：連関図の練習	前田佳孝	メデイカルシミュレーションセンター
10	事故の未然防止：危険予知トレーニング	前田佳孝	メデイカルシミュレーションセンター

○評価の方法

- ・出席点 (55点)：グループワークの成果、参加態度を総合評価
- ・最終レポート (45点)

○履修上の注意

授業構成：講義 (10分) →グループワーク (60分)

※毎回、様々なテーマに関する安全上の課題発見～対策立案をグループで行います。授業のほとんどをグループワークに費やし、社会人基礎力 (主体性、課題発見力、創造力、チームで働く力など) も同時に身につけることを狙いとします。

科目番号	科 目 名	責 任 者	学 年
L 1 2 7 0	医薬品研究の歴史	輿水崇鏡	1 学 年

○開講時期 [1] 学期 [水・1] 時限 [C]

[1] 学期 [水・5] 時限 [D]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [30] 名

○ねらい

- 1) 医薬品がどのように発見され、医学に応用されるようになったかについて基礎的な事項を学習する。
- 2) 過去に問題を解決した発想を学び、今後役に立てる。
- 3) 科学的探究の歴史から、研究方法の多様性を学ぶ。
- 4) 生体の基礎的な構成と働きを学ぶ。
- 5) 医学研究の素晴らしさに触れる。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-2 医学知識と問題対応能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

II-1-1 生命現象への基本的な理解

○教科書

講義中に該当項目の印刷物を配布する

○参考書

- 1) 山崎幹夫：歴史の中の化合物ー薬と医療の歩みをたどるー (東京化学同人) 2013年

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	薬の研究100年史概説	輿水崇鏡	分子薬理学
2	ホルモンと薬	輿水崇鏡	分子薬理学
3	受容体という概念	輿水崇鏡	分子薬理学
4	化学合成と創薬	輿水崇鏡	分子薬理学
5	情報伝達機構の利用	輿水崇鏡	分子薬理学
6	感染症との戦い	輿水崇鏡	分子薬理学
7	コンピューターサイエンス	輿水崇鏡	分子薬理学
8	ミラクルドラッグ	輿水崇鏡	分子薬理学
9	作業仮説から薬まで	輿水崇鏡	分子薬理学
10	新しい分子標的を探す	輿水崇鏡	分子薬理学

○評価の方法

指定する課題に答えるとともに、授業への積極的な参加、態度評価を加味する。

○履修上の注意

配布するテキストは和文だけでなく、専門用語の解説を加えながら英文も学ぶ。

〔L13〕 外国語系科目

外国語系科目一覧

科目番号／授業科目	責任者	学期／曜／時限	授業形態	単 位	定 員	評 価
L1315-7 World Countries and Culture I	R.Dilenschneider	I・火・2	演 習	1	12	出席・態度・試験 他
L1315-8 World Countries and Culture II	R.Dilenschneider	II・火・1	演 習	1	12	出席・態度・試験 他
L1315-10 American Culture, Cities and States	R.Dilenschneider	I・火・3	演 習	1	12	出席・態度・試験 他
L1316-7 Critical Thinking	R.Dilenschneider	I・木・2	演 習	1	12	出席・態度・試験 他
L1316-9 Contemporary Pop Music and Musicians	R.Dilenschneider	II・火・2	講義・演習	1	12	出席・態度・試験 他
L1316-11 English Essay Writing	R.Dilenschneider	II・木・2	演 習	1	12	出席・態度・論文 他
L1316-13 Reading Concepts	R.Dilenschneider	I・水・1	演 習	1	12	出席・態度・試験 他
L1317-2 Cultural Tendencies of Nihon in English 英語で日本文化	A.J.Lebowitz	A・I・火・3 B・II・火・1	演 習	1	15	出席・態度・レポート 他
L1317-5 Medical Ethics Topics English Discussion 臨床倫理英語 ディスカッション	A.J.Lebowitz	A・I・木・2 B・II・水・1	演 習	1	15	出席・態度・レポート 他
L1317-6 Intro to Research Paper Reading 論文読入門	A.J.Lebowitz	A・I・火・2 B・II・木・1	演 習	1	15	出席・態度・試験 他
L1317-7 Medical History Topics English Discussion 医学史英語 ディスカッション	A.J.Lebowitz	A・I・水・1 B・II・木・2	演 習	1	15	出席・態度・レポート 他
L1318 英語音声学入門 ～正しい発声を学ぼう～	A.J.Lebowitz	A・I・木・2 B・II・木・2	講義・演習	1	10	出席・試験
L1320-3 はじめてのドイツ語	小 野	I・火・3	講 義	1	20	出席・態度・課題
L1320-4 ドイツ語初級	小 野	II・火・1	演 習	1	10	出席・態度・課題
L1331 中国語概論	阿 部	I・水・5	講 義	1	30	態度・小テスト
L1350-3 はじめてのフランス語	吹 田	A・I・火・2 B・I・火・3 C・II・火・2	講義・演習	1	20	出席・小テスト・課題
L1350-4 フランス語初級	吹 田	II・火・1	講義・演習	1	20	出席・小テスト・課題

総合教育科目『英語』選択科目ガイド

英語科目は、他者との共感的なコミュニケーション能力の一環として身につける訓練をすると共に、英語を通して医学に関する問題や社会問題、異文化コミュニケーション及び世界情勢などを考える機会を提供します。

実践的なコミュニケーション能力の養成と共に、将来、英語の医学論文等を読めるように読解力を養うことを主眼としています。具体的には、医師としても必要な論理的な思考力や問題解決能力を培い、英語文献の読解能力や英語で論理的に表現する力を養います。また、社会に生きる人間を相手にする職業上必要な素養として、人間に対する理解を深めると共に、社会、倫理や異文化への問題意識を高め、多角的な視点で物事を見るために議論も行います。

英語科目は必修として1年時「総合英語演習」、2年時「臨床英語」の他に、14コース（各1単位）の選択科目があります。

入学試験の高得点を支えた「英語学力」からコミュニケーション手段となる「英語能力」を身につけるためには、自分で努力することが不可欠です。受け身の態度で授業に出ているだけでは到底修得できませんので、積極的な授業参加と課題学習を期待します。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1315-7	World Countries and Culture I	Dilenschneider	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [火・2] 時限 [A]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

The development of the Internet with websites such as Facebook, Skype, Youtube and Itunes has made the world smaller than ever before. As a result, students will likely be communicating with people from different countries and cultures, either in or outside Japan, after they graduate. Therefore, in order to understand people from different cultures, the purpose of this course will provide students the opportunity to learn about countries around the world through the context of English. We will use materials provided by the instructor as well as the On Board for More World Adventures textbook.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

On Board for More World Adventures by Scott Berlin and Megumi Kobayashi

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	Course Introduction	Dilenschneider	E n g l i s h
2	China	Dilenschneider	E n g l i s h
3	Indonesia	Dilenschneider	E n g l i s h
4	Singapore	Dilenschneider	E n g l i s h
5	Kenya	Dilenschneider	E n g l i s h
6	Morocco	Dilenschneider	E n g l i s h
7	Lebanon	Dilenschneider	E n g l i s h
8	Kuwait	Dilenschneider	E n g l i s h
9	Australia	Dilenschneider	E n g l i s h
10	Final Exam	Dilenschneider	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Presentation 33%, Final Exam 33%

○履修上の注意

Understanding and appreciation of Asian and African cultures.

科目番号	科目名	責任者	学年
L1315-8	World Countries and Culture II	Dilenschneider	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [火・1] 時限 [G]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

The development of the Internet with websites such as Facebook, Skype, Youtube and Itunes has made the world smaller than ever before. As a result, students will likely be communicating with people from different countries and cultures, either in or outside Japan, after they graduate. Therefore, in order to understand people from different cultures, the purpose of this course will provide students the opportunity to learn about countries around the world through the context of English. We will use materials provided by the instructor as well as the On Board for more World Adventures textbook.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

On Board for More World Adventures by Scott Berlin and Megumi Kobayashi

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	Course Introduction	Dilenschneider	E n g l i s h
2	Germany	Dilenschneider	E n g l i s h
3	Finland	Dilenschneider	E n g l i s h
4	Poland	Dilenschneider	E n g l i s h
5	Spain	Dilenschneider	E n g l i s h
6	Ireland	Dilenschneider	E n g l i s h
7	Greece	Dilenschneider	E n g l i s h
8	Argentina	Dilenschneider	E n g l i s h
9	Mexico	Dilenschneider	E n g l i s h
10	Final Exam	Dilenschneider	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Presentation 33%, Final Exam 33%

○履修上の注意

An understanding of European and South American cultures.

科目番号	科目名	責任者	学年
L1315-10	American Culture, Cities and States	Dilenschneider	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [B]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

This course will provide students with the opportunity to learn about the geographical and cultural aspects of the United States. We will use materials provided by the instructor as well as the American Voyager textbook. In addition, the instructor will speak in English and students will be encouraged to practice their English reading, writing, listening and speaking skills with other students.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

American Voyager by John S. Lander

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	Washington D.C.	Dilenschneider	E n g l i s h
2	New York	Dilenschneider	E n g l i s h
3	Mississippi	Dilenschneider	E n g l i s h
4	Florida	Dilenschneider	E n g l i s h
5	Texas	Dilenschneider	E n g l i s h
6	Colorado	Dilenschneider	E n g l i s h
7	Las Vegas & The Grand Canyon	Dilenschneider	E n g l i s h
8	San Francisco and Seattle	Dilenschneider	E n g l i s h
9	Alaska & Hawaii	Dilenschneider	E n g l i s h
10	Final Exam	Dilenschneider	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Power-Point Presentation 33%, Final Exam 33%

○履修上の注意

Understanding the geographical context of the United States

科目番号	科目名	責任者	学年
L1316-7	Critical Thinking	Dilenschneider	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [E]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

This course is designed to help students think critically and initiate discussions regarding a variety of topics. Therefore, students who enroll in this course should feel comfortable expressing their opinions as much of the content which engage students in class discussions. In addition, the instructor will speak in English and students will be encouraged to practice their English reading and writing, skills with other students.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

Think Smart - Critical Thinking in Critical Times by Michael Hood

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	Course Introduction	Dilenschneider	E n g l i s h
2	Study Abroad	Dilenschneider	E n g l i s h
3	Immigration	Dilenschneider	E n g l i s h
4	Women in the Workplace	Dilenschneider	E n g l i s h
5	Etiquette in the Digital Age	Dilenschneider	E n g l i s h
6	American Military Bases in Japan	Dilenschneider	E n g l i s h
7	Taxes	Dilenschneider	E n g l i s h
8	Living Together Before Marriage	Dilenschneider	E n g l i s h
9	Animal Rights	Dilenschneider	E n g l i s h
10	Final Exam	Dilenschneider	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Final Exam 33%

○履修上の注意

Develop critical thinking skills concerning a variety of issues.

科目番号	科目名	責任者	学年
L1316-9	Contemporary Pop Music and Musicians	Dilenschneider	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [火・2] 時限 [H]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

Music is the bridge that helps connect people around the world. To understand the cultural and historical influence of modern music and to help establish connections with patients and medical professionals from around the world, this course will provide students with the opportunity to learn about the pop songs and musicians from Europe and United States. We will use materials provided by the instructor as well as the Enjoying English through Pop Songs textbook. In addition, the instructor will speak in English and students will be encouraged to practice their English reading, writing, listening and speaking skills with other students.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

Enjoying English Through Pop Songs by Fuyuhiko Sedido, Aimei Kobayashi, Akikio Yamanaka and Kaname Yoshida

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	Course Introduction	Dilenschneider	E n g l i s h
2	Stevie Wonder & U2	Dilenschneider	E n g l i s h
3	Madonna & Bare Naked Ladies	Dilenschneider	E n g l i s h
4	Oasis & Alanis Morissette	Dilenschneider	E n g l i s h
5	Tom Petty & Aerosmith	Dilenschneider	E n g l i s h
6	Foo Fighters & Green Day	Dilenschneider	E n g l i s h
7	Bruno Mars	Dilenschneider	E n g l i s h
8	Adele & Beyonce	Dilenschneider	E n g l i s h
9	Maroon 5 & Justin Bieber	Dilenschneider	E n g l i s h
10	Final Exam	Dilenschneider	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Presentations 33%, Final Exam 33%

○履修上の注意

Students should have communication skills and an enthusiasm for popular music.

科目番号	科目名	責任者	学年
L1316-11	English Essay Writing	Dilenschneider	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [木・2] 時限 [L]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

This course will teach students to write English compositions. Students will be asked to compose essays and cite sources on topics related to their immediate environment and interests using a variety of different formats and sources.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

Materials provided by the instructor

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	Course Introduction & Essay-Intros	Dilenschneider	E n g l i s h
2	Essay	Dilenschneider	E n g l i s h
3	Essay	Dilenschneider	E n g l i s h
4	Compare and Contrast	Dilenschneider	E n g l i s h
5	Compare and Contrast	Dilenschneider	E n g l i s h
6	Compare and Contrast	Dilenschneider	E n g l i s h
7	Expository Essay	Dilenschneider	E n g l i s h
8	Expository Essay	Dilenschneider	E n g l i s h
9	Expository Essay	Dilenschneider	E n g l i s h
10	Final Compositions Due	Dilenschneider	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Final Papers 33%

○履修上の注意

Gain and understanding of how to write English composition using different formats.

科目番号	科目名	責任者	学年
L1316-13	Reading Concepts	Dilenschneider	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [水・1] 時限 [C]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

This course will provide students with the opportunity to challenge and enhance their English reading skills. Fact finding, reading analysis, vocabulary skills, and critical thinking are some of the skills that we will cover. We will use materials provided by the instructor as well as the Reading for Today: Concepts (Fourth Edition) textbook. In addition, the instructor will speak in English and students will be encouraged to practice their English reading, writing, listening and speaking skills with other students.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

Reading for Today: Concepts (Fourth Edition) by Lorraine C. Smith and Nancy Nici Mare

○参考書

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	Course Introduction	Dilenschneider	E n g l i s h
2	Living in Society	Dilenschneider	E n g l i s h
3	Living in Society	Dilenschneider	E n g l i s h
4	Health and Wellness	Dilenschneider	E n g l i s h
5	Health and Wellness	Dilenschneider	E n g l i s h
6	Science and Technology	Dilenschneider	E n g l i s h
7	Science and Technology	Dilenschneider	E n g l i s h
8	Government and History	Dilenschneider	E n g l i s h
9	Government and History	Dilenschneider	E n g l i s h
10	Final Exam	Dilenschneider	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance, completion of in-class materials, participation, presentations and the final exam will be the most important points for this course. Supplement reading materials appropriate for the course may be provided by the instructor.

○履修上の注意

科目番号	科目名	責任者	学年
L1317-2	Cultural Tendencies of Nihon in English 英語で日本文化	Lebowitz	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [B]

[2] 学期 [火・1] 時限 [G]

○授業形式 演習

○履修定員 [15] 名

○ねらい

This class examines prominent cultural tendencies in this country as explained in English. Using self-reflection, students will discuss personal experiences with these concepts. Connections will be made with community medicine and patient communication.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

None

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	Course Introduction	Adam Lebowitz	E n g l i s h
2	Major Religious Traditions in Nihon	Adam Lebowitz	E n g l i s h
3	Kami: Spirits of Nature and the Dead	Adam Lebowitz	E n g l i s h
4	Festivals and Community	Adam Lebowitz	E n g l i s h
5	Origins of Ethnicity: Jōmon and Yayoi	Adam Lebowitz	E n g l i s h
6	Family Relations: Shōtoku Confucianism	Adam Lebowitz	E n g l i s h
7	Disasters and History	Adam Lebowitz	E n g l i s h
8	Food Culture: Fish vs Meat	Adam Lebowitz	E n g l i s h
9	Waza: Ichirō and yakyū-dō	Adam Lebowitz	E n g l i s h
10	Recent Issues	Adam Lebowitz	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Final Project & Report 33%

○履修上の注意

特になし。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1317-5	Medical Ethics Topics English Discussion 臨床倫理英語ディスカッション	Lebowitz	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [E]
[2] 学期 [水・1] 時限 [I]

○授業形式 演習

○履修定員 [15] 名

○ねらい

English discussion is a necessary skill for developing professional relations with international colleagues. In this class, we will practice discussion by responding to questions and providing opinions concerning ethical issues in medicine. Class focus is on asking and answering questions, and learning topic-related vocabulary.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-1 医の倫理に基づきヒューマニズムに徹して保健・医療・医学の問題に取り組む態度をもつ

○教科書

None

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	Course Introductions	Adam Lebowitz	E n g l i s h
2	Informed Consent	Adam Lebowitz	E n g l i s h
3	Keeping Promises	Adam Lebowitz	E n g l i s h
4	Surrogates	Adam Lebowitz	E n g l i s h
5	Surgery	Adam Lebowitz	E n g l i s h
6	Organ Transplantation	Adam Lebowitz	E n g l i s h
7	Pediatrics	Adam Lebowitz	E n g l i s h
8	Public Health	Adam Lebowitz	E n g l i s h
9	Gifts	Adam Lebowitz	E n g l i s h
10	Final Discussion	Adam Lebowitz	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Short Vocabulary Tests & Report 33%

○履修上の注意

特になし

科目番号	科目名	責任者	学年
L1317-6	Intro to Research Paper Reading 論文読入門	Lebowitz	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [火・2] 時限 [A]
[2] 学期 [木・1] 時限 [K]

○授業形式 演習

○履修定員 [15] 名

○ねらい

This course introduces basic elements of English research papers (RPs) . We will examine RPs and analyze their elements, such as: Title, Abstract, Introduction, Results, and Discussion. The specific function of these elements in communication, and their connection to the general medical field will be discussed.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-2 保健・医療・医学の専門職としての役割の自覚と責任感をもつ

○教科書

None

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	Outline of RP Writing, Titles I	Adam Lebowitz	E n g l i s h
2	Titles II, Abstracts I	Adam Lebowitz	E n g l i s h
3	Abstracts II	Adam Lebowitz	E n g l i s h
4	Introductions I: Establish Territory	Adam Lebowitz	E n g l i s h
5	Introductions II: Establish Niche	Adam Lebowitz	E n g l i s h
6	Introductions III: Occupy Niche	Adam Lebowitz	E n g l i s h
7	Results	Adam Lebowitz	E n g l i s h
8	Discussions I: Opening	Adam Lebowitz	E n g l i s h
9	Discussions II: Limitations	Adam Lebowitz	E n g l i s h
10	Discussions III: Future Directions	Adam Lebowitz	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Final Project 33%

○履修上の注意

特になし

科目番号	科目名	責任者	学年
L1317-7	Medical History Topics English Discussion 医学史英語ディスカッション	Lebowitz	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [水・1] 時限 [C]
[2] 学期 [木・2] 時限 [L]

○授業形式 演習

○履修定員 [15] 名

○ねらい

English discussion is a necessary skill for developing professional relations with international colleagues. In this class, we will practice discussion by responding to questions and providing opinions concerning historical issues in medicine. Class focus is on asking and answering questions, and learning topic-related vocabulary.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-1 プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-1 医の倫理に基づきヒューマニズムに徹して保健・医療・医学の問題に取り組む態度をもつ

○教科書

None

○参考書

None

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	Introduction	Adam Lebowitz	E n g l i s h
2	History of Anatomy	Adam Lebowitz	E n g l i s h
3	History of Pharmacology	Adam Lebowitz	E n g l i s h
4	History of Medical Education	Adam Lebowitz	E n g l i s h
5	History of Epidemic Diseases	Adam Lebowitz	E n g l i s h
6	History of Ideas about Blood	Adam Lebowitz	E n g l i s h
7	History of Medical Technology	Adam Lebowitz	E n g l i s h
8	History of Surgery	Adam Lebowitz	E n g l i s h
9	History of Women and Medicine	Adam Lebowitz	E n g l i s h
10	History of Pediatrics	Adam Lebowitz	E n g l i s h

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Short Vocabulary Tests & Report 33%

○履修上の注意

None

科目番号	科目名	責任者	学年
L1318	英語音声学入門 ～正しい発音を学ぼう～	Lebowitz	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [E]

[2] 学期 [木・2] 時限 [L]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [10] 名

○ねらい

本来はコミュニケーション手段としての英語であるが、高校までの学習は読解中心にならざるを得ず、英語を聞き取り話す練習が不足している学生も多くいるであろう。英語の4技能のうちlistening comprehensionならびにspeakingの基礎となる発音とリズムを集中的に学習し、英語運用能力を向上させることを本講座の目標とする。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

Ⅲ-1-3 医学・医療・科学技術と社会の変化に応じてキャリアを継続させる能力

○教科書

特に指定せず、随時資料を配布する。

○参考書

英語音声学入門 松坂ヒロシ著 研究社

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	イントロダクション	清 水 素 子	外 来 講 師
2	母音 1	清 水 素 子	外 来 講 師
3	母音 2	清 水 素 子	外 来 講 師
4	母音 3	清 水 素 子	外 来 講 師
5	母音 4	清 水 素 子	外 来 講 師
6	子音 1	清 水 素 子	外 来 講 師
7	子音 2	清 水 素 子	外 来 講 師
8	子音 3	清 水 素 子	外 来 講 師
9	子音 4	清 水 素 子	外 来 講 師
10	テスト	清 水 素 子	外 来 講 師

○評価の方法

授業の出席およびテスト

○履修上の注意

特になし

科目番号	科目名	責任者	学年
L1320-3	はじめてのドイツ語	小野純一	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [B]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

ドイツ語の初歩を学びます。簡単な文法・単語を駆使した日常会話を目指し、次のステップに進むための文法の重要項目も身につけます。ドイツ語はヨーロッパの主要言語であるだけでなく、人類の活動にとっても重要な言語の一つです。政治・経済だけでなく、文学・哲学・科学など人類文化にもきわめて重要な貢献の数々を残しています。また芸術、とくに音楽や絵画において、創作においても歴史を知る上でも研究にとっても、ドイツ語は最も重要なツールの一つです。ドイツ語を窓口にしてヨーロッパやその他の地域に関心に向け、知的な広さや深みを実現できる言語的な基礎を提供します。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

『クラッセ！ ノイ 初級ドイツ語総合読本 (CD付)』白水社、2021

○参考書

『独和大辞典コンパクト版』小学館

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	子音と母音の発音	中山純一	哲学
2	あいさつ (単数 語順) 1	中山純一	哲学
3	あいさつ (単数 語順) 2	中山純一	哲学
4	紹介 (複数 動詞sein 数) 1	中山純一	哲学
5	紹介 (複数 動詞sein 数) 2	中山純一	哲学
6	持ち物 (性 冠詞 複数形) 1	中山純一	哲学
7	持ち物 (性 冠詞 複数形) 2	中山純一	哲学
8	食事 (haben) 1	中山純一	哲学
9	食事 (haben) 2	中山純一	哲学
10	家族 (冠詞類) 1	中山純一	哲学

○評価の方法

授業参加態度、出席、課題によって評価する。

○履修上の注意

事前の知識がまったくない状態で受講可能。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1320-4	ドイツ語初級	小野純一	1 学年

○開講時期 [2] 学期 [火・1] 時限 [G]

○授業形式 演習

○履修定員 [10] 名

○ねらい

ドイツ語の初歩を学びます。簡単な文法・単語を駆使した日常会話を目指し、次のステップに進むための文法の重要項目も身につけます。ドイツ語はヨーロッパの主要言語であるだけでなく、人類の活動にとっても重要な言語の一つです。政治・経済だけでなく、文学・哲学・科学など人類文化にもきわめて重要な貢献の数々を残しています。また芸術、とくに音楽や絵画において、創作においても歴史を知る上でも研究にとっても、ドイツ語は最も重要なツールの一つです。ドイツ語を窓口にしてヨーロッパやその他の地域に関心に向け、知的な広さや深みを実現できる言語的な基礎を提供します。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

『クラッセ！ ノイ 初級ドイツ語総合読本 (CD付)』白水社、2021

○参考書

『独和大辞典コンパクト版』小学館

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	家族 (冠詞類) 2	中山純一	哲 学
2	好きなこと (語幹変化動詞、命令形) 1	中山純一	哲 学
3	好きなこと (語幹変化動詞、命令形) 2	中山純一	哲 学
4	ファッション (3格支配の前置詞)	中山純一	哲 学
5	街にて (4格支配の前置詞、複合動詞)	中山純一	哲 学
6	休暇 (助動詞、未来形、zu不定詞) 1	中山純一	哲 学
7	休暇 (助動詞、未来形、zu不定詞) 2	中山純一	哲 学
8	身体 (再帰、従属文)	中山純一	哲 学
9	活動 (過去形、現在完了)	中山純一	哲 学
10	天候 (非人称、比較級・最上級)	中山純一	哲 学

○評価の方法

授業参加態度、出席、課題によって評価する。

○履修上の注意

文法を網羅せず、会話を重視します。「はじめてのドイツ語」を履修していること。

科目番号	科目名	責任者	学年
L 1 3 3 1	中国語概論	阿部博幸	1 学年

○開講時期 [1] 学期 [水・5] 時限 [D]

○授業形式 講義

○履修定員 [30] 名

○ねらい

中国語は多くの点で日本語や英語と異なる。中国語の発音と文法の基礎を学びながら、古くから日本と深い関わりをもってきた身近な異文化に対する理解を深め、コミュニケーション能力と異文化に接する態度を身につける。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

阿部博幸・王衛清『語感をみがく入門中国語』朝日出版社

○参考書

なし

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	発音 (1) 声調・有気音/無気音など	阿部博幸	中国語
2	発音 (2) 日本語にない子音・母音など	阿部博幸	中国語
3	述語による文の種類、中国語の語順	阿部博幸	中国語
4	動詞述語文・形容詞述語文	阿部博幸	中国語
5	疑問文の種類	阿部博幸	中国語
6	修飾関係	阿部博幸	中国語
7	存在表現と焦点の当て方	阿部博幸	中国語
8	過去の表現と日本語の「～た」の諸相	阿部博幸	中国語
9	「動作の進行」と「状態の持続」	阿部博幸	中国語
10	助動詞と前置詞 (英語との違い)	阿部博幸	中国語

○評価の方法

授業への参加態度とMoodleによる同期テストで評価する。

○履修上の注意

授業に積極的に参加すれば加点し、遅刻・欠席などに対しては減点する。授業と並行してMoodleの課題をすること。

この授業についての問い合わせは、jichiabe@jichi.ac.jpまで。

科目番号	科目名	責任者	学年
L1350-3	はじめてのフランス語	吹田映子	1 学年

- 開講時期 [1] 学期 [火・2] 時限 [A] [1] 学期 [火・3] 時限 [B]
[2] 学期 [火・2] 時限 [H]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

カフェオレ、レジュメ、サボる、…。日本語の中に、また英語の中にも、実は多くのフランス語が入り込んでいます。また、言語としてフランス語が使われている地域はフランスだけではありません。隣のベルギーを始め、ルクセンブルク、スイス、ルーマニア、カナダ（ケベック州）、モロッコ、アルジェリア、マリ、カメルーン、コンゴ等、様々な地域があります。フランス語の学習を機にあなたの世界を拡げてみませんか。フランス語に限らず、言語の習得は新たな世界観の獲得を意味します。この授業では会話表現を中心に、お互いを知るための道具としてフランス語を学びます。学期末に観るフランス語の映画では、沢山の「わかった」を体験しましょう。本講義を通じ、フランス語とそれに関連する文化への関心を高めてください。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

プリントを配布します。

○参考書

授業中に紹介します。

○授業内容、授業項目

回数	授業項目	担当者	所属
1	自己紹介をする	吹田映子	文学
2	授業中に使う表現を覚える	吹田映子	文学
3	主語に合わせて動詞を活用させる	吹田映子	文学
4	命令文の作り方	吹田映子	文学
5	否定文の作り方	吹田映子	文学
6	疑問文の作り方（1）Oui / Non	吹田映子	文学
7	疑問文の作り方（2）様々な疑問詞	吹田映子	文学
8	理由を尋ねる・説明する	吹田映子	文学
9	映画を観る（1）	吹田映子	文学
10	映画を観る（2）	吹田映子	文学

○評価の方法

出席、小テスト、課題

○履修上の注意

なし

科目番号	科 目 名	責 任 者	学 年
L1350-4	フランス語初級	吹 田 映 子	1 学 年

○開講時期 [2] 学期 [火・1] 時限 [G]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [20] 名

○ねらい

1学期にはじめてフランス語に触れた皆さん、いかがでしたか？ この授業では、フランス語の運用能力を確実に定着させることを第一の目標として、レベルの向上を目指します。音読と筆記を重視したドリル形式のプリントで単語を覚えながら、少し長めの文章を自力で読解できるようになりましょう。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

A-4 コミュニケーション能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

I-1-3 他者を理解し信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を身につけている

○教科書

プリントを配布します。

○参考書

授業中に紹介します。

○授業内容、授業項目

回数	授 業 項 目	担 当 者	所 属
1	Qu'est-ce que c'est ? (それはなんですか。)	吹 田 映 子	文 学
2	Qu'est-ce que c'est ?	吹 田 映 子	文 学
3	La chambre de Marc (マルクの部屋)	吹 田 映 子	文 学
4	La chambre de Marc	吹 田 映 子	文 学
5	Masao et André (正夫とアンドレ)	吹 田 映 子	文 学
6	Masao et André	吹 田 映 子	文 学
7	Le visage (顔)	吹 田 映 子	文 学
8	Le visage	吹 田 映 子	文 学
9	Quelle belle musique ! (なんてきれいな音楽なんでしょう。)	吹 田 映 子	文 学
10	Quelle belle musique !	吹 田 映 子	文 学

○評価の方法

出席、小テスト、課題

○履修上の注意

「はじめてのフランス語」(1学期)を履修済みであること。または相当するフランス語の学習経験があること。

編 集 教 務 委 員 会

編集責任者 教 務 委 員 長

編集担当者 総 合 教 育 部 会 長

学事課 教務係